

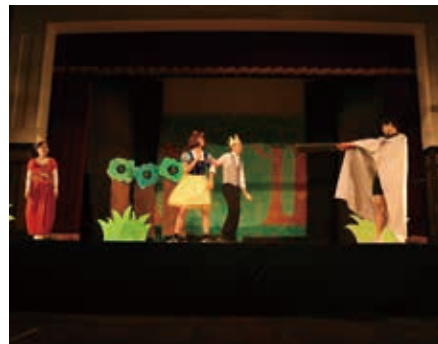
金 光 学 園

# やっなみ

2025.12



272号



# 体育会

# ほつま祭



## 新聞部

高校卒業式に発行される「ほつま新聞」も今年度で212号となります。この「ほつま新聞」は、コロナ禍前まで年2回発行していました。夏に発行されるのは、ほつま祭紹介新聞ということで、各発表団体の紹介をしています。現在は、皆さんに配布されるプログラムに記載されています。



2月末に発行される「ほつま新聞」は、一年間の学園の様子をまとめ、読者である学園の皆さんに紹介する新聞です。1面は卒業する高校3年生のページとして、卒業短歌や高3の思いがこもった作文を紹介しています。先輩達が培ってきた金光学園での経験が後輩達へのエールになるように、という編集方針でページを作成しています。最近の2面は、学園の最もホットな話題を皆さんにお伝えしています。昨年は、百三十周年で作成した「人文字」の舞台裏を取材しました。全校生徒約800人がスムーズに並び、短時間であの素晴らしい人文字が出来たことには、保健体育科の先生方を始め、多くの人の協力があったことを知らせたい！と思い記事にしました。皆さん、楽しんでいただけたでしょうか？ 3面は「活躍する人々」ということで、部活動等で活躍した生徒の皆さんを紹介しています。これも毎年編集に悩むところで、紙面は限られているのでどうしても削らざるを得ない記事がたくさんあり、一番頭を悩ませる部分です。4面は、中学生徒会長選挙の結果や、我が新聞部最大のお仕事、取材記事を書かせています。一年に一度、部員達が好きな場所にアポイントメントを取り、取材し、記事にしています。これからの良い新聞記事を目指して頑張りますので、皆さんもぜひ楽しみにしてください。

## 放送部

「金光学園の縁の下で力持ち」を自認する放送部。様々な行事において、司会進行や放送機材のセッティング、操作を行っています。学園の2大行事であるほつま祭と体育会では地味ながらも大活躍！小体育館の演劇では、主にミキサーを担当し、ほつま体では音響、照明全てを仕切っています。大きな会場で音や映像を流すためには必要な機材がたくさんあり、何と何をラインでどのように接続するのか？ということも行事ごとに異なるため、覚えることも多く大変ですが、行事がスムーズに行われるように、準備やリハーサルも余念なく行います。

また、アナウンスの技術も磨いています。中学・高校共に、全国の放送部員が目指すNHK杯！6月に行われる県大会には毎年出場しています。上位には食い込むのは非常に難しいですが、アナウンス原稿を考えたり、指定された朗読本のどこを抽出するか頭をひねったりと、楽しく挑戦しています。



「伝えること」を専門とする部活動として、これからの学園の行事を支えていけるよう頑張ります。

# 部活動紹介

## 『初体験』

9月に開催されました『ほつま祭』は生徒の活躍はもとより、先生そして保護者の皆様と卒業生やその保護者の皆様のご支援により、今年も例年以上を感じた素晴らしい内容での開催となりました。

今まで金光学園に携わった事がなかった私が、今年は初めて保護者会に携わり、現役生徒はもちろん先生と保護者、そして卒業生や卒業生保護者の皆様の金光学園に対する愛情の深さに触れさせて頂き、ただただ驚かされました。

10月に妻が急に入院する事態となりました。子供4人と両親と私の10日間の生活が始まりました。家事などしたこともなく、ましてや家の何処になにがあるのかも分からない状態からのスタートで、家中混乱してしまいました。洗濯物に洗い物と、次々止まることなく湧いてくる障害に対応することが、こんなにも大変だとは思いませんでした。朝見るNHKの朝ドラでも「夫を支える妻シリーズ」が多く、家庭を支えることが凄いいことだとは思っていましたが、いざ体験してみると外で仕事をしている方がよっぽどましだと感じました。入院経過も良く5日で無事に妻が退院し気付いたことは、妻が自然に家庭にいて家を支えてくれること、生意気な子供の下着が意外と大人びていたなどいろいろありましたが、校長先生から頂いた御神米が教えてくれるように、今が当たり前の幸せと思うのではなく、今ある幸せの恩恵を忘れず感謝する気持ちに少し触れることができたと思います。

自分だけが幸せで平和に生きてきた私が、こんなことを考えたこともありませんでした、どうぞ世界も平和で幸せでありますように。

(金光学園やつなみ保護者会副会長)

香西 哲郎

## 目次

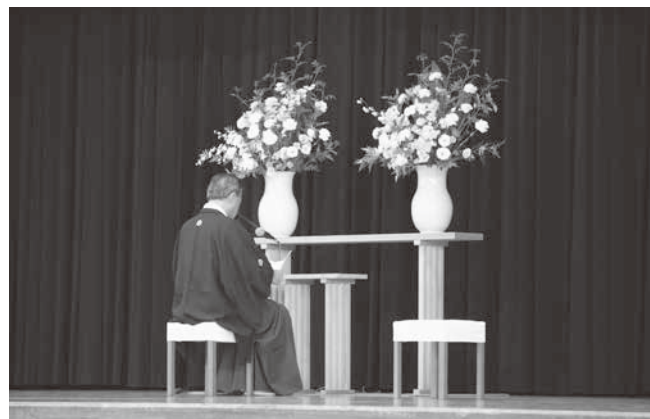
|                    |    |
|--------------------|----|
| 巻頭言.....           | 1  |
| 金光学園創立131年記念式..... | 2  |
| 道.....             | 10 |
| 友愛セールご協力のお礼.....   | 13 |
| メタセコイア.....        | 14 |
| 活躍おめでとう.....       | 16 |
| 活躍する卒業生..... 井上 智誠 | 20 |
| やつなみ保護者会のページ.....  | 22 |
| 会報.....            | 25 |
| 中2 広島平和宿泊研修.....   | 26 |
| 国際交流活動報告.....      | 30 |
| ある日のホームルーム.....    | 35 |
| 高2キャリア研修.....      | 36 |
| ほつま祭.....          | 44 |
| 体育会.....           | 48 |
| 令和7年度大学入試結果.....   | 53 |
| 入賞おめでとう.....       | 53 |
| 生徒会活動.....         | 54 |
| 学園だより.....         | 61 |
| 教室の窓から..... 編集後記   | 64 |

# 金光学園創立131年記念式

金光学園創立131年記念式が、11月6日、厳かに挙行された。天候にも恵まれ、朝8時15分、校長と代表生徒（高3金光奏一くん、中3高見侑佳さん）が本部広前に参拝し、教主金光様にお礼のお届けをした。

ほつま体育館に、28名の「来賓をお迎えし、金光学園中学・高等学校の生徒800名、教職員が一堂に会し、10時10分に音楽部吹奏楽団と音楽部コーラスによる「神人の栄光」の演奏で祭事が始まった。まず、学校法人金光学園理事長の祭詞に始まり、各代表より玉串が奉奠された。式典では、国歌斉唱の後、25年勤続の西山龍明教諭、吉永敬子教諭、内田雅彦教諭、奥野公子教諭が表彰を受けた。続いて校長式辞、金光教務総長祝辞、生徒代表の所願表明の後、金光学園歌斉唱で式典は締めくくられた。

休憩の後、11時30分から坂ノ上博史氏



（一般社団法人高梁川流域学校代表理事）より記念講演をいただいた。演題は「越境と自由―過去も未来も変えられる」。『自身の学生時代の経験を含め、様々な観点から世の中を見通したお話は、複雑な世界を生き抜く後輩たちへの熱いエールとなった。講演の後半は森分志学さんとの対談形式で行われ、会場は和やかな空気に包まれた。

その後13時30分にはほつま体育館で全教職員の記念写真を撮影した。



## 式辞

校長 金光 道晴



佳さんが、代表してここまでのお礼とこれからのお願いのお届をさせて頂き、参拝の後には、全員そろって、木綿崎山の教祖様や歴代教主の奥城、初代校長佐藤範雄先生の頌徳碑を巡拝して、先程帰校し創立記念式に臨んでいます。

ご来賓の皆様には本日は公私ともご多用の中、ご臨席を賜り誠にありがとうございます。さて、毎年この創立記念式の校長式辞では、学園の歴史や卒業生の方々などのお話をさせて頂いていますが、今日は金光学園がこれまで取り組んでまいりました国際交流やグローバル教育のお話をさせて頂きたいと思います。

今年は5月から10月まで、半年近くの間、真夏日とか夏日と言われる日が続いていましたが、先月半ばごろから、やっと待ち遠しかった秋らしい季節になってきました。そして今日の爽やかな秋の良き日に、金光学園131歳の誕生日を、この夏に行った耐震補強工事としての吊り天井撤去と、水銀灯にかわるLED電気の設置の大工事を終えた、このほつま体育館において、ご来賓の方々もお迎えし、全生徒・全教職員と共に挙行できますことは誠に有り難く嬉しいことであります。

この式典に先立ち、今朝ほどは全生徒・全教職員がそろって、金光教本部に参拝し、高3の金光奏一くんと中3の高見侑

金光学園では創立間もない明治四十一年（1908年）にアメリカ人宣教師のアリス・ペティ・アダマスという先生を英語教師として招聘したのが、外国人講師の始まりですが、大正7年以來は長い間途絶えてしまっていました。しかし平成元年（1989年）からは外国人講師の採用が行われるようになり、今は2人の外国人の先生に勤務して頂いています。

一方生徒の受け入れは平成元年に（三十六年前のことですが）オーストラリアから



の17歳の男子生徒を一年間受け入れたのが最初であります。その時私は担任をさせて頂き、沢山の楽しい思い出を作ることができました。

その後、英語圏からはアメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、カナダ

などから、ヨーロッパではイギリス、フランス、ドイツ、イタリア、フィンランド、デンマーク、ハンガリー、スイスなどから、南米ではベネズエラ、ブラジル、パラグアイなど、そして、アジアではインドネシア、台湾、ミャンマー、カンボジ



ア、タイ、モンゴルなど、多くの国々から、毎年のように1名から2名の長期の留学生を受け入れるようになり、現在に至っています。そして今年もドイツからのビツキーさんと、ネパールからのスラさんの2人の女子生徒がやって来ています。戦前や戦中においては、海外交流も出来なかった時期が長く続きましたが、戦後は教員も生徒もアメリカをはじめ海外研修に行くようになり、七十年前の昭和29年からはAFS留学生として一年間アメリカなどに留学する生徒が次々出るようになってきました。高19回卒業の齋藤泰雄さんという大先輩がおられますが（今年の高3より、六十年上の大先輩ということになります）齋藤さんはフランス大使をなさっておられた時や、八年前の韓国のピョンチャン冬季オリンピックの日本選手団の団長をなさった時も、母校金光学園に講演に来ていただきました。齋藤さんは高3の時（六十年前）AFS留学生として一年間アメリカに留学されたのですが、その体験からやがて外務省に入り、後にサウジアラビア大使、ロシア大使、フランス大使を歴任されることになったのであります。今でも高校の時の



アメリカ留学がそのもとになっていると言われています。

昭和の終わりごろからは、部活動単位で海外へ行くこともありました。天文部のグアム島でのハレー彗星の観測や、卓球部の日中学生交流大会への参加をはじめ、音楽部吹奏楽団は中国、オーストラ

リア、韓国、アメリカなどの海外演奏なども行いました。

また、希望生徒を募っての海外研修は昭和六十一年（1986年）から始まり、第一回の海外研修では15名の生徒が、アメリカに3週間の予定で渡航しましたが、その後も、夏休みや春休みを利用して、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドなどの国々に10日間から2週間程度の日程で毎年実施されており、来年の春休みに予定されているイギリス語学研修は35回目の海外研修になります。

チンチン

また近年は韓国の春川女子高校やオーストラリアのラッドフォードカレッジなどと姉妹校縁組を行い、毎年交流が続けられています。さらに中3では、全員がオーストラリアの西海岸パースでのグローバル研修を行います。現高校2年生から始まり、この中学3年生は第3回目になります。これらを合わせると一年間で200人前後の生徒が海外でホームステイをし、100人前後の外国の生徒達が学園に來校しているのです。

そのような中で、この2学期になっての9月半ばから10月にかけての一月余り



の間に、学園には6か国からの海外の生徒や学生や先生がやって来ました。先程お話ししましたドイツとネパールから留学して来ている2人の女子生徒に加えて、オーストラリアの姉妹校ラッドフォードから先生を含む21名、韓国の姉妹校春川女子高校からは校長先生を含め18名、そ

して京都にアメリカから留学している大学生17名、さらに倉敷市が姉妹都市縁組をしているニュージーランドのクライストチャーチ市からの短期留学生など、一か月余りの間に、約60名の外国の方々が來校したことになります。

特に姉妹校のラッドフォードカレッジ（第8回目の交流）や春川女子高校（第13回目の交流）の生徒達は約一週間前後滞在しましたが、皆さんの中にはホストファミリーを受けてくれた人も沢山いますし、学校での授業や部活動などで交流をした人も大勢いると思います。つい先日、春川女子高校の生徒達が帰国する際、お互いに涙を流して別れを惜しんでいた姿は、今も強く印象に残っていますが、私はその様子を見て、大変良い交流が出来ていることを確信しているところ

です。これらのグローバル教育を進めるにあたっては、金光学園の国際化はいかにあるべきか、かつてその目的や意義について全職員会議で討議されたことがあります。当時次のような合意形成がなされ進められることになりました。「民族的偏見をなくし平和な国際社会を進展させ

るために、世界との人々と相互理解と協力・連帯を進める」というの基本方針の中で、先程からお話した取り組みが始められ進められてきたのであります。

しかし、現在の世界情勢は「相互理解と協力・連帯」を実現するどころか、全く反対の状態が続いており、毎日多くの人の命が失われています。だからこそ、金光学園の「人をたいせつに」自分をたいせつに「物をたいせつに」の合言葉の精神と実践を世界に広げ、ここまで学園が国際交流やグローバル教育で目指している「相互理解と協力・連帯」を更に進めて行くことが大切であり、必要だと思っております。私達は共に一刻も早い世界平和の実現を願い、求めながら、ここからの一層の素晴らしい国際交流やグローバル研修への取り組みを願い式辞といたします。最後にもう一度「人をたいせつに」自分をたいせつに「物をたいせつに」

## 来賓祝辞

金光教務総長 橋本美智雄

代読 総務部長 和田 一真

本日は、創立131年となる記念式を迎え

られましたこと、心よりお祝い申し上げます。

最初に、学校運営、学校教育の上にご尽力をいただいております学校法人関係の方々、校長先生をはじめ教職員の皆様にあたためて御礼申し上げます。

さて、本年は大阪で「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、四月から十月まで万国博覧会、「万博」が開催されました。私も七月の末に一度入場して、大屋根リングにも登らせていただきました。人生で二度も大阪の万博に参加できて、ありがたいと思います。五十年前の万博では、大きく重たい携帯電話が展示されていましたが、今ではほとんどの人がスマホを持つ時代になりました。思い描いた未来がやってくることもあるのです。今回は空飛ぶタクシーが話題にはなり



ましたがデモンストラーションだけに終わりました。それでもおそらく五十年も経たないうちに実用化されると言われています。思い描いた未来に近づくことは可能です。この金光学園で学んでいることはすべて、皆さんが将来を思い描くことに役に立つことだと思います。平和で自由で創造的な未来を思い描き、その実現に一歩ずつ近づいていっていただきたいと思っています。

また、皆さんも存じの不思議な公式キャラクター「ミヤクミヤク」の名称には、今まで「脈々」と受け継がれてきた私たち人間の命、知恵と技術、歴史や文化を受け継ぎ、これからも「脈々」と未来に受け継いでいく、という願いが込められているそうです。

ここまでの百三十一年間に、脈々と受けつがれてきた金光学園の伝統と実績、そして「人をたいせつに」自分をたいせつに「物をたいせつに」という合い言葉に込められた願いを、皆さんがしっかりと受け継いでくださり、次の世代に引き継いで行っていただきたいと存じます。

あわせて皆さんがこれからも、元気に明るく、そして仲良く楽しく有意義に過

ごしていただけますようにと、祈らせていただきます。

最後になりましたが、本日永年勤続で表彰を受けられました方々には、それぞれの持ち場にあつて、実意に職務に尽くしてこられましたそのご努力に対し心から敬意を表しますとともに、これからも元氣にお勤めになられますよう、お祈り申し上げます。本日はまことにおめでとうございます。

## 所願表明

生徒代表 柳澤 慧



私たちの金光学園は、今年で創立131年を迎えました。明治二十七年に「神道金光教学問所」として始まった金光学園の歴史と伝統は、時代の激流の中にあつても、多くの先人たちのお働きによって受

け継がれ、本日、こうして131年のお年柄を迎えられましたことを、心より感謝しお祝いをしたいと思います。

私が金光学園に入学してから今年で六年目となります。中学1年生の春、広々とした校舎と見知らぬ顔に緊張しながら登校していた日々が、今でも鮮明に思い起こされます。私の学年は入学して間もなく、新型コロナウイルスの影響で休校となっていました。登校が再開されても、行事は軒並み中止や制限を余儀なくされてしまいました。どうして私達は、普通の中学生生活を送れないのだろうかという思いをしました。

しかし、コロナ禍も少し落ち着いてきた時期に沢山の制限はありましたが、先生方のご尽力により、学園でしかできない多くの貴重な経験をさせていただきました。その中でも、私は中学から生物部に所属し、野外での生物採集や動物の骨格標本の製作などに取り組みました。中でも、ためきの解剖に挑戦したことが特に印象に残っています。インターネットで調べても十分な手順は載っておらず、仲間同士で意見を出し合い、試行錯誤を重ねながらの解剖でした。活動がで

かった私達にとって、「仲間と協力して、正解がない物事に取り組む」という経験は、大きな学びとなりました。

また、高校1年生のはつまつ祭では、演劇の台本の製作を担当し、物語の本筋を損なわず時間内に収めるため、仲間と議論を重ねながら構成を練り上げました。バグアイから来た留学生のオクタビオくんもキャストとして出演することになりました。上手く言葉が通じない難しさもありましたが、仲間に意見を貰いながら長いセリフを短くするなどの工夫を重ね、劇を成功させることができました。

そして、日々の授業や友人との対話といった何気ない日常の中にも、他者の考えに触れ、視野を広げる機会が数多くありました。これら一つひとつの経験が、思考力や共感性、そして物事の本質を見抜く力を育んでくれたと感じています。

近年、生成AIが様々な分野で注目されています。生成AIは急速に発展し、日常生活や産業、医療、教育などですでに活用されています。私自身、英作文を作成するときAIに助言を求めることがあります。しかし一方で、AIは時に誤った情報をもっともらしく提示する、「ハ



ルシネーション」を起こすことや、倫理や感情、人間関係といった複雑な事象に対応しきれない側面もあります。AI相手だと、こちらが一方的に情報を与えるため、解答にどうしても偏りが生じます。私は、AIがどれほど進化しても、決して

で代替し得ない、人間ならではの力があると確信しています。人間同士なら自身の経験や共感から何が起きたか想像して助言できますが、AIは与えられた情報内でしか判断できません。

だからこそ、AIに振り回されるのではなく、AIを「うまく使う」ことが求められています。AIが示す答えは、数ある選択肢の一つに過ぎません。「AIに任せて終わり」ではなく、自らの頭で考え、最善を探究し続ける姿勢こそ、先行きの見えない時代を生きる私たちに必要とされているのだと考えます。金光学園は、AIでは代替できない総合的な力を育ててくれます。金光学園が掲げる「学・徳・体」の全人教育は、その土台を作ってくれるものであり、「真に世のお役に立つ人材」へと繋がる道ではないかと考えています。私は、将来が今の研究者になるという夢を叶えるために、日々受験勉強に励んでいます。目標の大学に本当に合格できるのかという不安に押しつぶされそうになりますし、挫折してしまいうるようになります。ですが、私がこの夢をあきらめないのは、一緒に住んでいる祖母のためです。祖母は長い間抗が

ん剤治療を続けています。その副作用のせいで味覚や食欲を失い、髪が抜けてしまった姿と一緒に暮らしながらずっと見ているのに、直接助けてあげることができない。その歯がゆさと苦しみを取り除いてあげるにはどうすればいいかという思いが、元々生物が好きで、生物に関わる方面に進みたいと考えていた私の気持ちと結びつき、夢の土台となりました。

この夢を実現するためには専門分野の知識だけでなく、様々な分野の知識を組み合わせ、新しい発想を生み出す柔軟さが必要だと思い、私は、日常の中で出会う人や体験から学びを得る姿勢を心がけてきました。そして、現在、共に励む仲間が存在、そして自ら考えて選び取った夢があるからこそ、前を向いてまた頑張ることが出来ます。私たちはどうしても日々を送るだけで精一杯になってしまいがちです。けれども、すでに夢や目標を定めている皆さんは、その実現方法を考え続けてください。まだ模索中の方は、自身のやりたいことを考え続けてください。一人で悩む必要はありません。金光学園には、温かく導いてくださる先生方と、頼もしい仲間たちがいます。その支えの

中で、皆さんが自分なりの夢にたどり着けることを、心より願っております。

最後になりましたが、私は、素晴らしい友人との出会いと様々な経験をもたらし、下さった金光学園に入学し、学ぶことが出来たことに心から感謝しています。将来自分は誰かの役に立っているのだと胸を張ることが出来るように、これからも日々合言葉である「人をたいせつに自分をたいせつに物をたいせつに」を日々実践していきたいと思っています。金光学園のさらなる発展を願い、所願表明とさせていただきます。



## 創立記念式 お届け

おはようございます。金光様、日々ご祈念いただき有難うございます。私たちが通う金光学園中学・高等学校は、今年で創立30周年を迎え、本日、創立記念式を挙行させていただきます。

昨年度に引き続き、今年度も全校生徒が揃っての本部参拝となりました。生徒を代表して、これまでお世話になったすべての人、ものに感謝し、お礼申し上げます。

今年度は、ほつま祭・体育会をはじめとする、様々な学校行事において、昨年度を上回る活気と笑顔が見られ、充実し、各々が経験と成長を得た一年となりました。これらの思い出は、私たちの大切な宝物であり、さらなる飛躍の原動力になったと感じております。

私達学園生は、この伝統ある学び舎の一員として、これからの金光学園の発展のために、「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の、合言葉を常に忘れず、高い志を持って、学習活動、部活動、諸行事に一層の努力をしていくことを、ここに固く決意いたします。

特に高校3年生におきましては、受験を目前に控え、日々、己と向き合う時期となっております。そして全生徒一同、それぞれが歩むべき道に向かって努力を重ねておりますが、全学年の生徒ひとりひとりが健康で、また、それぞれの目標を達成することが出来ますよう、お取次ぎをお祈りいたしますとともに、今後とも、お祈り添えをいただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

有難うございました。



生徒代表 高3 金光 奏一  
中3 高見 侑佳



# 道

(41)

金光 道晴

## 還暦の卒業生の同窓会に出席して

先日の11月23日(日)に、かつて私が高1と高3で担任をさせてもらった還暦(60歳)になる高36回の卒業生の同窓会に出席させていただきました。参加者全員に、赤い「ちゃんちゃん」のかわりに、「赤いTシャツ」(ROLLING60の文字が書かれていた)が作られておりそれを着て参加している人も多かったのですが、なぜか還暦を過ぎた私にもお土産にと頂きました。

出席した卒業生の皆さんも、私自身も自分の年齢も忘れて、40数年前にタイムスリップしたような気持で、昔話をしたり、聞いたりして大変元気を頂いた同窓会でした。それからもう数日経っているのですが、今でもその時の余韻がなお残っている中で、この「道」の原稿を書いています。

この還暦同窓会の開催については、1年

ほど前に開催日時も決まっていた、私も出席してもらいたいとの要請を受けていました。そして、早くから10数名の有志による準備のための実行委員会が立ち上げられ、毎月1回の準備委員会を10数回開いて検討してきたものであります。その準備会では、久しぶりに開催する同窓会への、それぞれの熱い思いがあつて、意見がまとまるまでに何度もすつたものだったそうです。

そして、その実行委員会で、決まったことの一つに、当日、何と同窓会に先だつて、40数年前の当時の恩師の先生に授業をしてもらい、昔に返つてその授業を受けようという話がありました。結局、私にも授業をするようにと要請があり、もう一人の先生と二人で、2時間(1コマ20分の2コマ)の授業を担当することになってしまいました。学校に朝9時に集

合し、授業を受けた後に、校内の見学をし、それからみんなで学校から金光駅まで歩き、JRで尾道まで移動し、午後から尾道の会場で同窓会を開催するというのです。正直なところ、私としてはそのようなスケジュールや移動にはかなり無理があり、いかがなものかとの思ったのですが、実行委員の皆さんの熱い思いがあり、それに水を差すわけにもいかず、言われるままに授業をさせてもらい、尾道の会場までみんなと一緒に移動することになりました。

ちなみにその当日の日程は次のようなものでした。①9:00金光学園集合。9:15から1時間目と2時間目は2クラスに分かれて、在校時代と同じように教室で授業を受ける。午前中に2クラスに分かれての2つの授業後は、②全員で高校棟の昇降口の前で記念写真をとる、③校内見学をした後に、④何と1時間以上かけて、尾道に移動して、午後12:30~15:00頃まで同窓会開催、⑤その後尾道市内を散策し、⑥さらに場所を福山に移して18:00から2次会というハードスケジュールなのであります。

当時は尾道や福山から通学していた生

徒も多かったということで、会場も設定されたようですし、また折角の機会だから、とにかく還暦という大きな節目の同窓会は、朝から晩まで丸1日の同窓会にしようという話にまとまり、この度の還暦同窓会の形になったと聞きました。中には遠路東北や東京、関西や九州などからの同窓生も参加しており、早朝から夜遅くまでの日程だったので、福山に2泊して参加した人もいたようであります。

同窓会に先立つて行った授業ですが、参加者には授業を受けることは伝えていたそうなのですが、誰先生が何の授業をするかは伝えていないので、授業担当者はチャイムが鳴ったら、サプライズで教室に入ってくると号令係の卒業生が「起立、気をつけ、礼」と号令をかけるので、それから授業を始めてくださいとのことでした。当日は私が教室に入ると「ワァー」という歓声があがり、その中で、打ち合わせ通り、授業を始めることができました。

1コマ20分の授業なので、正直どんな授業をしようか、何が出来るとか迷いましたが、結局現在、高校3年生の宗教で話をしている素晴らしい生き方をされた

3人の卒業生の話をするにしました。高3の宗教の授業では1人について1時間かけて、話をするのですが、1コマ僅か20分という短い授業時間ですから、後述する3人の卒業生の話を紹介して授業に変えたようなことであります。

高3の宗教の授業では、金光教のことやキリスト教や仏教の話もありますが、むしろ素晴らしい生き方をなさった方や卒業生の話を聞いてもらうことで、少しでも生徒たちの生き方や考え方に繋がってあげばとの思いで授業をしています。

さて、この度の3人の卒業生の話は、①茅原基治さん(明治36年卒)・・・ロシア革命の直後に800人の難民となったロシア人の子供たちを保護し、ロシアの東ウラジオストツクから船で3か月かけて太平洋・大西洋を横断し、ロシアの西、親元のペテログラードに帰郷させるという人道的精神を体現された船長の話。②中川仲蔵さん(大正10年卒)・・・お父さんの病気の薬代を稼ぐために、住み込みで毎朝2時に起きて新聞配達などとして働いたが、17歳の時、お父さんが亡くなったため薬代を稼ぐ必要がなくなり、その後19歳で学園(当時は金中)に転入学し、奨学金

などを頂きながら勉学に励み、学校を卒業後、大会社の社長になられた。在学時に奨学金を頂いてお世話になったから今自分があるので、金光学園に恩返しをしたいと、今から40年前に1億円の寄贈をしてくださった方、③中山亀太郎さん(大正13年卒)・・・5歳の時列車事故で両腕と左足を失ったが、残った右足1本と口で、字を書くこと、食事をとること、剃刀でひげをすることなど日常のことはもちろん、時計の修理から、自転車に乗ることまで、大変な努力を重ね、なんでも出来るようになり、「運命を愛し運命を生かす」生き方をされた方を紹介しました。

私と一緒に授業をされたもう一人の先生は、昨年度末退職された体育の新谷先生でしたが、当時体育の準備体操として行われていた学園体操の話や、参加者の自己紹介など行ったと伺いました。卒業生の皆さんには、40数年前にもどって生徒として、当時と新築落成した時と変わらない教室の席につき、授業を受けられたことを大変懐かしく思い、嬉しく、喜んでもらったようでした。

午後からの学園から尾道に会場を移し

## ほつま祭 「2025年 友愛セール」ご協力のお礼

日頃よりやつなみ保護者会の活動にご理解とご協力を賜っております皆様に、心より厚く御礼申し上げます。

本年度もほつま祭にて「友愛セール」を開催することができました。おかげさまで多くの方々にご来場いただき、盛況のうちに無事終了いたしましたことを心より感謝申し上げます。

キッチンカー出店につきましては、昨年度に続いて実施し、出店者の皆様のご協力により、より充実した内容で運営することができました。また、保護者によるかき氷や綿菓子の販売を新たに取り入れるとともに、手作り品や制服リユースの取り組みも継続し、保護者同士の交流の機会にもなりました。さらに、関係各位からご厚意によりご提供いただいた品々も販売させていただき、多方面から温かいご支援を頂戴いたしました。こうした活動を通じて、保護者同士や地域の皆様と学園とのつながりが一層深まったことを、大変嬉しく感じております。

また、HCCサークルならびにステンドグラスサークルの皆様には、心のこもった作品をご出品いただき、華を添えていただきました。多くの来場者の笑顔と交流が生まれる温かな時間となりましたこと、感謝申し上げます。

皆様からお寄せいただいたご厚志やご協力によって得られた収益は、子ども達がより豊かで充実した学園生活を送るための貴重な資金として、大切に有効活用させていただきます。今後とも、金光学園が地域に愛される学園であるよう、やつなみ保護者会一同努めてまいります。

今後とも、やつなみ保護者会へのご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

金光学園やつなみ保護者会会長 藤井 秀和

ての同窓会は12…30…15…00まで食事をとりながらの正に旧交を温めるひと時となりました。実行委員の皆さんはお互いの顔と名前がわからないのではと、参加者の全員名札や当時の卒業アルバムを何冊も用意されていましたが、顔を見ても、中学や高校の時の面影が残っている人もいますが、自己紹介をして初めてわかる人、自己紹介をして頂いてもなかなか写真と一致しない人など様々でした。そして、2時間半はあっという間に過ぎてしまいました。そして、1次会の最後は会場の道路を隔てての尾道の海をバックに記念写真をとりました。その後は尾道の散策をして何と18…00頃から今度は福山に場所を移して2次会をするということでした。私は尾道で失礼をしましたが、きつと福山に会場を移しての2次会でも延々と昔話や近況報告に花が咲いたことだと思えます。

日に同窓会を開くことがよくあります。この年明けの成人の日にも計画されていると聞いていますが、若い卒業生もここを同窓会のスタートとして何年かに一度でもいいので、同窓会を開き、この度の還暦同窓会のように、何十年過ぎてても同窓会を開催し、その機会に旧交を温め、母校への思いを寄せる機会になればと思います。私にとってはこの度の同窓会で大変元気をもらい、若返ったような気持ちの一日となり、またとても懐かしく、嬉しく楽しい同窓会となりました。



# メタセコイア

## SSH全国大会出場



8月6日・7日に神戸で行われた令和7年度SSH生徒研究発表会で、高3岡田隆生くんが「図書館ロボットの可能性について」というポスター発表を行いました。

「この研究では、自ら考案した図書館ロボットをもとに、実際に導入した際の経済効果やニーズを探るため、市内の図

書館へ赴き、インタビュー調査を実施しました。発表では、実践的な視点からの質問も多く、自分の中で大きな意味を持った発表となりました」と大会参加を振り返る岡田くんは、「今後も社会問題に目を向け、探究を深めていきたいです」と意欲を語ってくれました。



出場しました。

「私は4歳の頃からヴァイオリンを習っている。将来の夢は世界で活躍するヴァイオリニストになることだ。その夢に近づくために国際コンクールに挑戦し、思いがけず1位をいただくことができた。受賞の知らせを聞いた時は驚きが大きかったが、同時に大きな喜びを感じた。カーネギーホールで世界中の人々と共に音楽を分かち合えたことは、まさに夢のような時間だった」と当時を振り返る渡邊さんは、10月13日に玉島文化センターで行われたコンサートにも参加しました。

「10月には倉敷管弦楽団とソリストとして共演させていただく予定であり、今からとても楽しみにしている。思い入れのある大切な曲なので、聴いてくださる方々に私の思いが届くように心を込めて演奏したい」と抱負を語ってくれました。今後の活躍に期待しています。

## やつなみ保護者会 中国・四国地区高等学校PTA連合大会で発表

7月11日（金）松江にて第67回中国・

四国地区高等学校PTA連合会大会島根大会が開催されました。

参加者は金光校長、藤井会長、長谷川副会長、橘高副会長、渡邊副会長の5人でした。

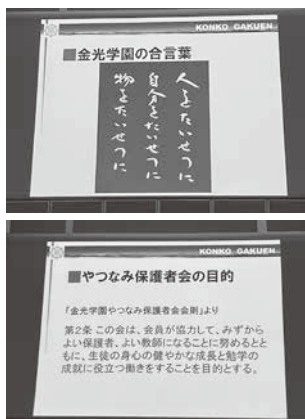
開会セレモニーの後、ガンダムやエヴァンゲリオンロボットのデザインなどをしていくメカニックデザイナーの山根公利さんの基調講演がありました。午後は高校生の活動の取り組みとして神楽やダンス部のダンス、和太鼓の演奏がありました。その後、各学校のPTAの取り組みとして金光学園中学・高等学校、愛媛県立今治東中等教育学校、島根県立沖高等学校の発表がありました。当校は本年度やつなみ保護者会の会長の藤井秀和さんが発表されました。発表の中で金光学園の理念など学校の紹介、また、やつなみ保護者会の歴史、組織構成、部ごとの役割分担など二十分という短い時間に多岐にわたって報告を致しました。

参加されたメンバーにももちろん、本年度三役の皆様には改めて多くの気づきや学びを得る場となりました。

## ヴァイオリン 世界大会出場！



7月9日、ニューヨークのカーネギーホールで催された「The New York Golden Classical Music Awards International Competition」に、中2渡邊晴乃さんが



# 活躍おめでとう

## 高男子バレーボール部 全国大会出場



7月28日～8月1日に島根県で行われた令和7年度全国高等学校総合体育大会に高校男子バレーボール部が出場した。「全国大会に出られることに満足せず、結果を残すためにチーム一丸となり練習をしてきたが、予選グループ戦敗退という結果に終わってしまった。技術面に加えてフィジカル面やメンタル面でも全国との壁を感じた。今大会の悔しさを忘れずに次の大会に向けてチーム全員で取り組むつもりだ」と試合を振り返り抱負を語ってくれたのは高3村上碧真くん。部員達のこれからの活躍に期待しています。

## 中学少林寺拳法部 全国大会出場

8月2日～3日に宮崎県で行われた第19回全国中学生少林寺拳法大会の男子単独演武の部に、中2前川章海くん・和辻



碧くん、中3吉田喬くんが、男子組演武の部に、中3古川凛一くん・牧野大治くんが、女子単独演武の部に中3三村心都さん・中2亀山惟さん・澤谷望花さんが、女子組演武の部に中3高野日菜乃さん・山本梨央さん、男子団体演武の部に古川

くん、牧野くん、吉田くん、前川くん、和辻くん、上松くんが、女子団体演武の部に、三村さん、高野さん、山本さん、亀山さん、澤谷さん、香西さんが出場しました。

「男子団体演武の部で第10位、女子団体演武の部で第8位となり、男女ともに決勝進出することができ、うれしく思うと同時に、入賞は逃してしまい、部員一同悔しい思いでいっぱい」と語るのは中3牧野くん。「この悔しさをバネに日々の修練、昇級試験を精一杯行いたい」と試合を振り返りました。

中3の組演武の4人は、11月に神奈川県で行われる少林寺拳法全国大会にも出場予定であり、雪辱を果たしたいと熱い抱負を語ってくれました。

## 高校少林寺拳法部 全国大会出場

7月23日～25日に広島県で行われた令和7年度全国高等学校総合体育大会において、男子単独演武の部に高3西山和志くんが、女子組演武の部に高2井藤ひよりさん・高1岡部倅歩さんが、女子団体演武の部に、井藤さん、寺崎さん、小林



さん、白神さん、小野さん、和田さんが出場しました。予選を突破し準決勝に進出した西山くんは、「六年間の集大成となるよう、九十秒の演武に全てを注いだ。決勝進出ができず、悔しさは残るが、これまでの全国大会で出会った多くの拳士と声を掛け合い、共に大舞台で演武できたことは何より有難い経験となった」と試合を振

## 高校陸上競技部 全国・中国大会出場



6月20日～22日に広島県で行われた第78回中国高等学校陸上競技対校選手権大会の、女子4×100メートルリレーに高2水流和々花さん、瀧本椰々子さん、板倉葵海さん、前田来奈さんが出場し第4位に、高2瀧本さんが女子100メートルで第5位、女子200メートルで第6位に入賞し、インターハイへの切符を手に入れました。中国大会の試合を振り返るのは高2瀧本さん。

「昨年、個人としては準優勝で終わっ



てしまっ、インターハイ出場とはならなかった。今年は、昨年の悔しい気持ちをぶつけて6位以内となり、インターハイに行くことができた。中国地方の選手は、インターハイでも上位入賞した選手が多くいる。その方々と一緒に走ることができて、自分の弱さを知ることができた」と語り、「来年の中国大会こそは優勝する」と熱い抱負を述べてくれました。

また、高1小野礼翔くんも、同大会男子200メートルで第2位となり、第78回全国高等学校陸上競技対抗選手権大会に出場しました。

「高校で初めての全国大会では、最初の組で緊張はしたが、トップの選手と走

り、今の自分がどれほど全国に通用するかを知ることができるチャンスだったので、ワクワクもしていた。実際に走ってみると、中国大会からの自分とはひと味違ったような走りができ、とても自信がついた」と試合を振り返る。

「決勝で納得のいく走りができなかったので、来年はもっと上を目指したい」と抱負を述べてくれました。



音楽部コーラス  
総合文化祭に出場



7月30日～31日に香川県で行われた第49回全国高等学校総合文化祭に音楽部コーラスが出場しました。「総文祭出場は、私たちにとって大変学びのあるものだった」と語るのは高2菰口温音さん。

「今回私たちは岡山県にある本校も含めた十校の高校の合唱部員たちと一緒に歌った。何度も交流会や講習会を重ね臨んだ今回の本番は、他県の学校の合唱を聴く良い機会で、いつもとは違った雰囲気での本番だった。

今回の出張を通して、私たちのこれらの課題、目標が見えてきたと思う。これからもっと練習に励もうと思う」と大会参加を振り返りました。

## 水泳

### 中国大会出場

7月18日～20日に鳥取県で行われた第73回中国高等学校選手権水泳競技大会の、200メートル個人メドレーに高1中原桃子さんが、100メートルバタフライに高2田口大輝くんが出場し、田口くんは8位入賞を果たしました。田口くんは、

「200メートルでは思うような泳ぎができず、悔しくも決勝進出を逃しましたが、100メー

トルでは決勝で自己ベストを更新して8位入賞することができた。この結果は自信にもなり、課題も見つかった大会となった」と試合を振り返り、来年のインターハイ出場に意欲を燃やしました。

さらに10月25日に山口県で行われた第13回中国高等学校新人水泳競技選手権大会にも両名は出場した。中原さんは、

「大会当日はとても緊張したが、レースでは全力で泳ぐことができた。ベストタイムには惜しくも届かなかったが、他県の選手や先輩方の泳ぎを見てレベルの高さを感じ、大きな刺激を受けた。また、仲間の応援が力になり、最後まで諦めずに泳ぎきることができた」と大会を振り返り、「今回の経験で自分の課題も明確になったので、来年は決勝に出場できるよう、日々の練習を大切に、努力を怠らないようにする」と今後、の抱負を述べてくれました。

また、同大会田口くんは200メートルバタフライで第7位に入賞し、大健闘しました。

さらに、8月8日～10日に鳥根県で行われた第59回中国中学校水泳競技選手権大会の200メートル個人メドレーに中3平

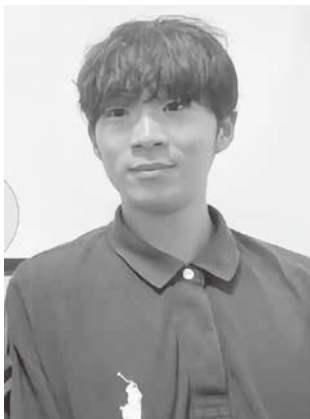


井慶太くんが出場し、8位に入賞しました。「8位入賞をすることができ嬉しかったです。また、岡山県選手団の友達みんなに応援したり、練習したりして全力で中国大会を楽しむことができ、刺激を受けた。だからこそ、これからの練習をもっと頑張ろうと思う」と平井くんは試合を振り返る。「いつか全国大会に出場したい。これからも、応援してくれる人や家族、コーチ、先生などへの感謝の気持ちを忘れず努力していきたい」と熱い抱負を語ってくれました。

## 宇宙とロボット、そして人の物語をつなぐために

慶應義塾大学環境情報学部 環境情報科学科 学士課程

井上 智誠（高76回卒）



幼いころから、私は夜空を見上げるのが好きだった。宇宙には、私たちが認識できる世界の外側にも、同じ時間が淡々と流れている。地球で起こる喜びや悲しみ、宇宙のスケールで見ればほとんど何の影響も持たない——その事実を思うと、少し怖くもあり、同時に大きな感動を覚える。そんな「自分の小ささ」を感じ

ながらも、確かに今を生きているという感覚が、私を突き動かしてきた。

転機になったのは、二〇一〇年6月13日にカプセルを地球に帰還したJAXAの小惑星探査機「はやぶさ」だった。当時私は5歳であった。多くのエンジニアが作り上げたその機械は、まるで一人の旅人のように宇宙を彷徨い、数々のトラブルを乗り越え、最後には燃え尽きる前に地球の写真を撮影した。機械でありながら、人間の情熱と知恵を体現したその姿に、私は深く心を動かされた。人が作ったロボットが、人に感動を与える——そこに「生命」のようなものを感じた。宇宙を理解したい。そのための相棒として、ロボティクスこそが私の生きる道だと思っている。

とはいえ、私の学生生活は順風満帆で

はなかった。中学2年までは基本的に学校に行きにくくて、3年生から教室ではなく教育相談室で過ごす日々になった。この、教室で出会った仲間たちは今でも私のとても大切な友人だ。

学校に行っていない間、私はロボットを作っていた。パソコンの前に座り、CADで設計をし、創造と破壊を繰り返しながら想像したものを実現する。実際にバンデミック期間中にリュックを魔改造しフルカラーLEDとAIによる物体検出モデルと距離センサーなどをつけたリュックで登校していた。ロボットも持って登校し先生に説明していた時期もあった。その時複数の先生が興味津々に聞いてくれたのがとても嬉しかった。また、このロボットの移動にベクトルを使うが、そのベクトルを勉強するために数学や物理の先生に聞いていた。

小学6年のとき、ロボカップジュニアというロボット競技に出場していた私は、スランプリに陥っていた。そんなとき、なぜか思いつきで京都大学の学園祭にパソコンを抱えて行った。ロボットの設計画面を見せながら「僕も作っているんです。」

と大学生に話しかけた。すると、彼らは驚くほど親身に反応してくれた。電子回路の設計、CNCの使い方、コーディングの考え方——あらゆることを教えてもらった。気づけば京大に通うのが日課になり、学食で議論し合う時間が増えていった。その先輩たちが翌年NHKロボコンで15年ぶりに優勝したとき、テレビの前で涙を流した。あのときの感情は、今でも私の原動力になっている。

高校では、ロボットづくりと並行して宇宙研究にも踏み込んだ。探究学習の活動で、前原英夫先生のご指導とご教授の下、京都大学岡山天文台や竜天天文台と協力し、ふたご座流星群の観測データから3次元解析の自動化をするAIの研究を行った。初めて論文の書き方や研究の方法を学び、科学の世界の面白さを知った。金光学園を選んだのも、天文台があり、天文部と電気科学部があったから。私にとって、宇宙とロボティクスは常に地続きのテーマだった。こういった研究、校外活動を先生たちは優しく見守ってくれていた。そして、そんな私を信じて待ってくれた金光学園の先生方と、どんな時も支えてくれた家族の存在が、何よりも

大きな力になった。焦らず見守り、「きっとできる」と信じてくださったその眼差しが、私の背中をそっと押し続けてくれたのだと思う。自分を信じる力は、あの時間の中で少しずつ育っていった。

現在、私は大学で様々な領域に触れながら自動運転の研究をしている。周囲認識や経路予測、軽量化アルゴリズムといったロボティクスの核心に取り組みながら、現実の課題にどう応用できるかを模索している。大学外では、東北大学と慶應が中心となる学生チーム「ARES Project」に所属し、世界最高峰の火星探査機大会「JIRC (University Rover Challenge)」に日本代表として出場した。結果はEquipment Servicing部門で世界4位、その後、大会二日目に大きなトラブルが発生し辞退となり、総合30位。全員で乗り越え、最後までやり切った。同時に、高校時代から携わってきたベンチャーMixLinuxでは、AIや海中ロボティクスの研究開発に取り組んでいる。AUVの開発を通じて、AIとハードウェアの融合が社会の基盤を支える技術になることを実感した。そして、高校2年生から構想してきたスタートアップ「READ」

を大学入学直後に創業した。タスク管理AIの開発を進めながら、「人と自然計算機の関係をどうデザインできるか」というユビキタスコンピューティングに対する問いを、事業と研究の両軸で追いかけている。

学校に行きにくかったころの私に、「いつか世界大会で火星ローバーを走らせ、AIをつくり、会社を立ち上げる」と言っても信じなかっただろう。でも、あの孤独な時間があつたからこそ、誰かに見せるためではなく、自分が納得できる「動くもの」を作るといふ姿勢が身についた。そして、金光学園での自由な時間で好きなものを探求していく力が身についた。何よりも、その自由と信頼の環境を与えてくれた先生方と家族に、今あらためて感謝している。

私にとってロボットは単なる機械ではない。宇宙のように広く、深く、時に人間以上に誠実な存在だ。だからこそ、技術の先にある「人の物語」を忘れたくない。これからも私は、宇宙を見上げながら、地上でロボットをつくる。どんなに小さな一歩でも、それがやがて誰かの未来を動かす力になると信じている。

# やつなみ保護者会のページ

皆が輝いていたほつま祭

高2保護者 石井麻紀子

令和7年度のほつま祭は9月20日、21日に開催されました。高校3年生からは有志の参加となるので、高校2年生の我が子にとっては皆が揃って参加できる最後の機会であり、また、演技で参加することもあって、親子共に少し緊張してこの日を迎えました。

小体育館の雰囲気を楽しむ幕が上がるのを待っていると、カーテンの隙間から秋口の心地よい風が吹き



込んできて、ほつとしたことを覚えていきます。中学生、高校生のどの演技も丁寧に創りこんでいて、爆笑するネタもあり、沢山楽しませていただきました。

展示は、万博に関する展示が多くあり、それ以外でも地域の遊園地や施設、飲食、不思議などそれぞれ異なったテーマを深く探っていて、それぞれ旅行気分浸れたり、驚いたり、感動したりでした。

部活動展示、部活動の発表も熱気にあふれていました。秋を感じながらも、子供たちが熱い熱量で楽しむ姿は夏の青春そのものでした。心から楽しむことができました。生徒の皆様ありがとうございました。

最後になりましたが、ほつま祭の開催に多くのやつなみ保護者会の皆様方、先生方がご尽力くださいましたことを心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

一日延期でじらされた体育会

高2保護者 坪井 康輔

雨のため二日間順延となった土曜日、高校体育会が秋晴れの中開催された。

気になるグラウンドの状態は、まずまずと言ったところ。



娘の視点から体育会の撮影をいっぱいしてもらおうと新しいカメラ(中古だが)をコッソリ準備していたが、「好きなように楽しませてあげて・・・」と嫁の一言に断念。しよがない、私が撮影するしかないという気合が入る。

事前に娘からもらったプログラムをスマホで確認しながら、ビデオカメラ担当

の嫁と東へ西へ、北へ南へ！  
どの角度、どのアングルからでも楽しんでいる表情が見える！

「ああ、こんなに楽しそうにしているなんて、親としては何よりうれしい」

娘だけでなく、競技中の子、応援している子、係の仕事をしる子、どの生徒の表情も輝いていて、胸が熱くなる。

私だけでなく、来られているすべての保護者が思っていたに違いない。

先生たちも負けずに最高の笑顔。ほつま祭から続く体育会で、楽しむボルテージが生徒・保護者・先生も最高潮なのだろう。

残念ながら部活動リレーの中止、綱引きの時間短縮はあったが、全員で楽しい時間を共有出来て、「最高」の体育会だったと言いたい。

## 「2人の娘」の応援

中2保護者 津尾由紀恵

今年の体育会是小雨とともに始まり、予想外の寒さに防寒着とブランケットを抱えての観戦でした。我が家は次女の応

援と、ホストファミリーとして春川女子高校の留学生の応援も兼ねた特別な年になりました。

開会式では、兄弟学級ごとに見応えのある入場行進と次女のいる吹奏楽団の演奏を存分に楽しみました。

そこからはイスに座るヒマもなく娘たちの出場種目を必死で追いかけてました。心配になるくらい雨足が強まる中、春川からの「娘」はムカデ競走に出場。友達と笑顔で走り切りました！金光学園での体育会を楽しんでくれたよう嬉しく思いました。ス

ポーツから遠ざかっている次女はなんとリレーに出場。

第一走者だと言うので、緊張しすぎてないか転んでし



まわないかとハラハラしながら姿を追いか、無事バトンを渡してひと安心。そして接戦となったアンカーの走りを、腰を浮かせながら応援する次女をカメラに収めました。一生懸命走り抜く姿も仲間を応援する表情も、どちらも素敵一枚になりました。

個人的に、障害物競走で借り物が何か、毎年楽しみにしています。今年は、2人の校長先生が走り、好きな人の手を取って走る場面も！例年以上に盛り上がりたのは私だけではなかったのでは、と思います。

最大の見せ場でもある応援合戦は、各兄弟学級でテーマに沿って創り上げたダンスやパフォーマンスに今年も圧倒されました。団長やチアのリーダー力はもちろん、限られた準備期間で創り上げた全員の団結力に魅せられました。

活気あふれる体育会を開催していただき、先生方、職員の皆様心より感謝いたします。

## やつなみ保護者会研修旅行

教養部 友田 直子

今年度もほつま祭が盛況に終わり、友愛セールやキッチンカーなどにご協力いただいた皆様への慰労と研修を兼ねた旅行が教養部主催で11月5日に開催されました。

今年度は前副校長の横山特別参事も参加され、神戸のコンチエルトランチクルーズと神戸海洋博物館・カワサキワールドを見学しました。

校長先生に見送られて出発後、自己紹介を交え保護者同士の会話や車窓を楽しみながら和やかな雰囲気の中で神戸へ向かい、クルーズまでの待ち時間はハーバーランドモザイクで面白い物などを楽しみまし



た。

ランチクルーズでは非日常的な空間の中で、グランドピアノの生演奏を聴きながら、たくさんさんの楽しい会話と美味しい食事ときれいな景色を見ることができ、あつという間のひと時になりました。

クルーズ後は神戸ポートタワーで記念写真を撮り、大海原を駆ける帆船の帆と波をイメージした白いスペースフレームの大屋根を特徴とした博物館では、神戸港の歴史や川崎重工の技術、物流の大切さを学ぶ中で社会インフラの重要性を改めて感じさせて頂きました。

帰路では三木SAで特産品を買求め、車内では心地よい揺れでうたた寝をする方や思い出を振り返る方、また、子育てや学校生活の情報共有で交流を深めながら学園へ戻りました。

到着時には校長先生が出迎えられ、保護者間の絆をさらに深める有意義な一日となりました。今後もより一層保護者間の絆を深め、子供達の為に様々な事に取組んで参りたいと思います。



## 会報

やつなみ保護者会地区会 今年度は、6月7月に22地区で地区会を開催できた。全地区それぞれの話題で情報交換ができた。オープンスクール 今年度は7月27日(日)オープンスクールで、三役さんが分担して保護者相談コーナーで相談に応じた。

第3回評議員会・第2回全役員会 8月27日(水)評議員会・全役員会が開催された。主な議題は、7月に実施した地区会の総括と9月のほつま祭友愛セールの取組などだった。三役さんや部長さんの緻密な計画で打合せが進んだ。

ほつま祭友愛セール 9月20・21日のほつま祭では、友愛セールで物品と金光学園タオルの予約販売を実施し、全家庭に対してメール配信などで物品などの販売を案内し、大きな成果を残した。(収支決算中間報告については別表参照。)また、サークル活動として、ハンドクラフト・ステンドグラスの2サークルも教室を開き、来場者に喜ばれた。

金光教大祭奉仕 9月28日・10月5・10日の3日間に行われた金光教秋の生神金光大神大祭に評議員さんが奉仕した。ま

た、12月14日に行われた布教功労者報徳祭にも評議員さんが奉仕した。いずれも全国の参拝者の方々の奉仕をして大変感謝された。

研修旅行 11月5日(水)役員同士の親睦と研修を目的に、教養部主催の研修旅行が行われた。総勢19名が秋の神戸港周辺を散策した。

第4回評議員会 11月18日(火)の評議員会は、研修・出張報告の後、各専門部の活動内容の総括と報告、ほつま祭友愛セールの総括、金光教大祭奉仕等について協議した。

### 諸会合

○8月5日 岡山県高等学校PTA連合会広報活動推進セミナー。三島監事出席。

○8月21・22日 全国高等学校PTA連合会三重大会。藤井会長・長谷川副会長・渡邊副会長出席。

○9月12日 中国地区私立中高保護者会会長等懇談会。佐藤史成副会長出席。

### 【R7年度 友愛セール 決算中間報告】(円)

|          |                          |            |           |
|----------|--------------------------|------------|-----------|
| 収入       | 予約販売(物品)                 | 生徒・教職員・HCC | 1,007,500 |
|          | 当日販売(手作り作品等)             |            | 609,195   |
|          | 当日販売(購入販売)               |            | 106,350   |
|          | 当日販売(予約販売)               |            | 115,000   |
|          | 当日販売(株式会社ほつま)            |            | 354,400   |
|          | 保護者会出店(綿菓子、かき氷)          |            | 146,000   |
|          | キッチンカー移動販売出店料            |            | 110,000   |
| 支出       | キッチンカー移動販売寄付             |            | 70,000    |
|          | 販売売上追加、寄付等 <sup>※1</sup> |            | 268,500   |
|          | 合 計                      |            | 2,786,945 |
|          | 手作り作品材料他諸経費              |            | 116,180   |
|          | 予約販売物品購入費                |            | 970,841   |
|          | 合 計                      |            | 1,087,021 |
|          | 収支(収入ー支出)                |            | 1,699,924 |
| 収支<br>使途 | 赤十字事業資金へ <sup>※2</sup>   |            | 20,000    |
|          | 合 計                      |            | 20,000    |
|          | 残高                       |            | 1,679,924 |

※1 地区・学年・有志等の寄付を含む  
ステンドグラスサークル販売売上 100,000  
ハンドクラフトサークル販売売上 150,000  
遊休品追加販売売上 8,600  
タオル追加売上 9,900  
268,500

※2 例年寄付をさせていただいている団体

○9月27日 岡山県高等学校PTA連合会会長研修会。藤井会長出席。  
○10月8日 岡山県私学秋季研修会。藤井会長・佐藤史成副会長・佐藤一平副会長出席。  
○10月10日 岡山教育事務所PTA等人権教育研修会。オンライン。佐藤史成副会長出席。  
○10月11日 玉島警察署管内子どもを守る母の会地域安全パトロール出発式。田村評議員出席。  
○11月27日 備西地区高等学校PTA連合会秋季総会。渡邊副会長・金光校長出席。

## 中2 広島平和宿泊研修



「つながれた想い」

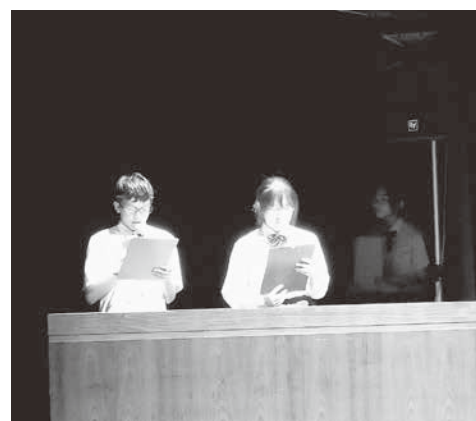
1組 大城希来里

本当の平和とは何か。平和研修を通して、この問いと向き合い、自分なりの平和への思いを持つことができるようになった。

私は研修を通じて、「日常があることの大切さ」を強く感じた。

平和資料館では、原爆が落とされた当時の様子や人々の写真、血の付いたまま破れている衣服などを目にした。平和集会では、被爆された方や遺族の方のお話を直接聞くことができた。

その中で、戦争の恐ろしさや、大切な人や当たり前だったはずの日常を失ったことへの深い悲しみが、はつきりと伝わってきた。そして、「戦争は二度と起こしてはならないものだ」という思いが心の中に沸き上がった。特に印象に残っているのは、ピースパー



クツアーで聞いた野村英三さんについての話である。野村さんは爆心地の近くで奇跡的に生き残ったが、周囲からは「なぜ自分だけが生き残っているのか」と問われたという。そうした体験から、「二度と戦争が起こることのないように」という強い思いを持ち、証言活動を行われていたそう。

この話から、戦争が人々に与えた影響の多さと重みを改めて感じた。そして、多くの人がそれぞれの思いを持ち、伝え

てきてくださったことを、これからも大切に受け継ぎ、つないでいきたいと強く思った。

知ることで、自分の中で変わったことは多くあった。全てを知ることとはできないけれど、できる限りの知る努力をし、自分なりの考えを持つ。自分の行動が周囲にどんな影響を与えるのか考えるのかなど、日常を失ってしまうことがないように、できることから始めていきたい。

【平和とは】

2組 柚木 柚七

私は広島研修に行って、平和とは「みんなが安心して過ごせること」ができ、一人一人が自分らしくいられること」だと思いました。

『平和とは』の「みんなが安心して過ごせる」というところは、戦争や暴力がないことを表しています。どうしてそう考えたのかというと、戦争は本当にしたいいけないと広島研修で学んだからです。広島研修では原爆の被害を実際に見たり聞いたりしました。

その中でも印象に残ったのは、やけどをしている人の写真でした。その写真は、



男が女かどころか人間かどうかとも分からないほどでした。その横には「水をくれ」と言っていたが、水をあげると安心するからあげられず、その後なくなったと書いてありました。本当に痛かっただろうし、苦しかっただろうと胸が締め付けられました。これ以外にもたくさん被害にあった人の写真や絵があり、原爆は

もう絶対にあつてはならないと思いました。原爆を落とさないためにも戦争は絶対にしてはいけないし、こんなふうな人を痛めつけるようなことがあつてはならないと実感しました。また「一人一人が自分らしくいられる」というところは、戦争がないだけではなく、最近問題になっている差別や貧困などなく、自分が周りの人に認められ、輝けるということを表しています。原爆では無差別に人がたくさんなくなりました。これでは人が平等に扱われていません。

私にとって平和とは冒頭に述べましたが、平和を実現させるために私ができることは自分も友達も認めることだと考えます。原爆の子の像ができたように小さなことから始めていきたいです。

【平和の大切さを痛感した】

3組 杉本真莉彩

私は今夏の広島平和研修で以前よりも戦争の悲惨さや平和に過ごすことの大切さを痛感しました。そのことを特に感じた出来事は二つあります。

一つ目は金光教平和集会です。被爆体験継承者の方の話の中で、「子供の頃は

戦争の話をされるのが嫌だったが、大人になってその話を自分が継承しなければならなかった」ということを聞いてびっくりしました。私はその方は子供の頃から平和が大切だ、と考えていたに違いないと思っていたからです。その後の被爆体験者の女性の話を聞き、もっと現実味が増した気がしました。私はステージの上でスライド発表をしましたが、会場にいる様々な人が発表を真剣な目で聴いていてみんなが平和について考えていてすごいなと思いました。集会は私の中で一番原爆の現実味を感じたイベントでした。

二つ目は平和記念資料館の見学です。今までの学習では服などの遺留品は全部写真でしか見られませんでした。しかし、いざ本物を見てみると血がついていたリボロボロになっていて、戦争の残酷さがあるのすごく伝わりました。「原爆の子の像」をつくるきっかけになった佐々木禎子さんの人生や犠牲者が持っていたお弁当箱など様々なものが展示・説明されていて、原爆についての理解を深めることができました。

また、三滝少年自然の家でも集合する

時など集団行動も自分なりによくできたとと思います。今回の研修で学んだことを周りの人に少しづつでも発信していきたいです。

#### 「あの日を知る」

4組 浦瀬 瑛太

私は、今回の平和研修を通して、戦争の悲惨さと、平和な日常を過ごせている幸せを深く感じました。小学校の頃から戦争や原爆について学んできましたが現地で受けた衝撃は何倍も大きかったです。「命の重さ」と「日常のかけがえなさ」などを深く実感しました。

特に心に残ったのは、平和祈念資料館で見た展示の数々です。焼き焦げ血がにじんだ衣服、ひどい火傷をおった人の写真、そして当時の写真や日記からは、戦争が、原爆が人々の暮らしを一瞬で奪った恐ろしさが伝わってきました。どれも見るのがつらくなるような展示ばかりでした。しかし、私はこれには、目を背けてはいけなそう思いました。悲惨な現実を直視し、その事実を受け止めることが平和の第一歩だと思ったからです。

今、私たちが平和に暮らしているのは、



過去に多くの犠牲と苦しみがあったからこそです。原爆がもたらした痛みや苦しみを知り、それを風化させないように語り継ぐことが同じ過ちを繰り返さないために必要なことだと思いました。どんなに目を背けたくなるようなつらいものであろうと過去にしっかりと目を向け、しっかりと向き合うことが私たちに求められ

ていることではないかと思いました。

「平和」とは何か。これは広島研修を通して考えるように言われたテーマです。私は平和というものは、お互いを尊重し合える愛、みんなが安心して暮らせる世界だと思いました。これまで当たり前前だ

と思っていた日常、みんなで笑い合っていた日々、このように毎日の生活の中に平和はありふれていると思います。しかしこれは昔の人たちの多くの犠牲とんでもない努力によってつくられました。この戦争をもっと深く知って、語り継ぐ

ことが今を生きる私達の使命だと感じました。広島で学んだこの経験を忘れず一日一日に感謝して生きていきたいです。

### 平和集会短歌

千羽鶴平和を祈り折り重ね平和の重み指先に乗る

薬師寺絆那

原爆で止まったままの時計の針動き出すとき未来を照らす

田淵 敬一郎

見渡せばみどり広がるヒロシマの地面の下には焼け野の記憶

大城希来里

ドームは見た崩れゆくまちをドームは見た平和を守る広島のみちも

福田 杏奈

につぼんは最初で最後の被爆国未来に言うため語りついでいく

浦瀬 瑛太

ただいまと言えろこの家平和の灯守り続ける今の世界を

金光 勇人



# 国際交流活動報告

## ニュージーランド現地校交流プログラム

7月31日～8月10日にかけて、中高生8名が  
John Paul Collegeを訪問し、交流を深めた。



した。英語力に少し不安はありましたが、周りの人たちが積極的に話しているのを見て、自分も勇気を出して挑戦しました。小さな一歩でしたが、積極的に話すことで交流が広がり、友達もできました。

また、ニュージーランドの自然もとても感動的でした。山や河の美しさは日本で見てきた景色とは違い、心が洗われるような気持ちになりました。自然を大切にする人々の姿を見て、環境を守ることの大切さも考えるようになりました。

この留学を通して、私は英語力だけでなく、自分の気持ちを伝える力や異文化を理解する姿勢を学びました。短い期間でしたが、とても充実していて、自分にとって大切な経験になりました。これから



「小さな一歩を踏み出す」

高2 鳴本 陽斗

私はこの夏、ニュージーランドへ留学に行きました。留学は二度目ですが、少し不安もありました。ですが、そこではとてもいい経験をすることができました。

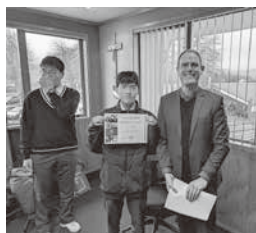
私も英語の勉強を続け、今回の学びを将来につなげていきたいです。

## 「文化の違いに驚いた」

中3 藤井 聡那

私は文化の違いに一番驚きました。もちろん、日本とは全然違うことは分かっていたうえで行ったつもりでしたが、日本の習慣と違うのが、意外と大変なことがわかりました。

特に驚いたのが、ご飯です。ニュージーランドの主食は主に、パンと麺でした。どの料理も日本とは味付けが違い、あまり美味しくない、と感じることが多くありました。確かに日本の料理のほうが自分にあっている感じがします。しかし、トーストや中華、焼きそばのような料理など、日本に似た料理もあり、少しずつ安心しました。



そして、やはり、一人ひとりが食べる量が違い、ホストファミリーとスーパーにも行きました。一つが大き

いな、と思います。しかし、ホストマザーもホストファザーも「食べられない」と言うので、許してくれるので、ホストファミリーはとても馴染みやすかったです。私は、毎日弁当を作ってもらっていましたが、弁当箱というより、タッパーで、普通にお菓子も入れていたので驚きでした。



時間がそもそも遅いので、不思議な感覚でした。今回の研修を通して、文化は実際に生活してみてもわかることが多くありました。自分が普段している生活が変わることは、想像以上に心にも体にも負担がかかりました。しかし、少しずつ理解して、日本との共通点を探すことで、向こうでの生活に慣れることができます。



10月22日～26日にかけて、生徒15名と引率3名の計18名が来校され、様々な体



## 第13回姉妹校交流 春川女子高等学校来校



験を通じて交流を深めました。

国語や英語、書道や美術などの授業を体験し、ホストシスター・ブラザー達との広島研修も行いました。

25日には、中学体育会にも参加しました。小雨が降る中の開催でしたが、10メートル走や、ムカデ競走、障害物競走や長縄跳びの競技にも参加し、学園生にも負けない奮闘ぶりでした。

「国際交流の秋」と銘打てるほど、多くの海外の方と交流できた2学期でした。



9月23日～29日にかけて、生徒19名と引率2名の計21名が来校され、様々な体



## 第8回姉妹校交流 ラッドフォードカレッジ来校



験を通じて交流を深めました。

授業体験では、国語の授業で日本の伝統的な遊びを体験し、英語や書道、音楽の時間でも様々な学年の生徒と交流しました。

調理や茶道も体験しました。

雨天のため高校体育会が延期となり、学園生と一緒に体育会を楽しむことはできませんでしたが、広島研修では宮島や平和記念公園にホストシスターやブラ



ザーと訪れ、たくさん思い出を作りました。  
また、この交流期間に、京都アメリカ大学コンソーシアムの方々の来校もあり、中学3年生や茶道部員との交流が行われました。



## 留学生紹介

2025年度アジア架け橋プロジェクトの留学生として、8月24日～12月13日の間、ネパールからやってきたSurakshya Acharyaさん、通称スラさんが、高校1年2組のメンバーと一緒に過ごしました。

金光学園での初日、先生と1年2組のみんなは温かく迎えてくれました。お互いをよく知るためにゲームをしたり、アイスを食べたりして、とても特別な日になりました。最初の1週間はあっという間に過ぎました。日本語を理解できず大変なこともありましたが、ある日、別のクラスの女の子が駅で声をかけてくれたことがきっかけで仲良くなり、一緒に昼食を食べるようになりました。そのおかげで友達がだんだん増えました。友達と話すうちに、少しずつ日本語も上手になってきました。言葉の壁があってクラスメイトとあまり話せなかったけど、だんだん自信を持って話せるようになりました。日本に来る前は勉強のことばかり考えていましたが、体育の授業で友達とスポーツをする楽しさを知り、今では体育も好きな授業の一つです。物理や数学にも興味があり、授業では黒板の内容を理解しようと一生懸命取り組みました。芸術や美術の時間は新鮮で、楽しい経験でした。部活では茶道部に入り、茶道を通して日本文化の穏やかで伝統的な面にも触れることができました。金光学園での生活が終わりに近づき、私は感謝の気持ちで胸がいっぱいです。規律正しさ、尊敬、チームワークの大切さを学び、素敵な瞬間も大切にすることができました。この経験は私を大きく成長させてくれました。ここでの思い出は、ずっと忘れません。金光学園のみなさま、クラスメイトのみんな、4ヶ月間本当にありがとうございました。心から感謝しています。



## ある日のホームルーム



## 中学3年2組



金光学園の二大行事と言われているのは、つまつま祭と体育会。当日はもちろん、当日に向けての準備期間も中学生・高校生ともに大いに盛り上がる。特に、中学校生活最後の体育会にかけける中学3年生の熱意は格別だ。そんな

中学3年生が、ある日のH.R.の時間を使い、体育会に向けて活動をしていた。まずは組織決め。団長・副団長、チア・副チア、組旗係、衣装係など、体育会を成功させるために必要な役割を、体育会実行委員が中心となり自分たちで決めていた。大体、このような決め事の時にはトラブルがつきものであるが、驚くくらいスムーズに決まっていた。



大人でも決め事の時には中々決まらないうことが多のに、さすが中3だ。この体育会にかけける熱意を感じた瞬間であった。組織が決まり、団のリーダーとなる団長・チアを中心に本格的な活動が始まった。団のテーマや応援合戦の自身、衣装のデザイン、旗のデザインなどを、自分たちで意見を出し合いながら、自分たちの力でつくりあげていった。クラスの中で意見が割れる瞬間もあった。1クラスでこれだけ人数がいれば当然起こりうることであるのだが、予想はしていたが、この状況を彼らがどのように解決していくのか、教師として期待を込めて見守った。ある生徒は自分の思いを熱弁したり、またある生徒は応



援合戦で実際に使いたい曲を熱唱したりと、それぞれが多様な方法で意見の主張をしていた。お互いにそれを茶化すこともなく、しっかりと聴き、そして尊重していた。結果的には多数決で決まっていたいくのだが、その結果にたどりつくまでの過程に、生徒たちのまだ見ぬ「力と可能性」を感じることができ、彼らのこれからの将来がますます楽しみになった。

この時間中に決めきれなかったこともあったが、生徒たちは体育会に向けて良いスタートダッシュを切ることができ、私は彼らの未来の姿が楽しみになった、そんなある日のH.R.だった。

## 高2キャリア研修 関東方面コース

1日目

『旅の始まり』

7組 小谷 要人

この3泊4日のキャリア研修は正直とても不安でした。自分がクラス点呼の係



になったり、友達が急に行けなくなったりと、今までになかったことばかりだったからです。しかし結論から言うとなともいい旅になったと思います。僕はその中でも1日目についての感想を書こうと思います。

1日目の朝、みんなとても早く起きたと思います。誰か遅刻するのではないかなと思っていましたが、誰も遅刻することなく集合時間の3分前には揃って驚きました。そこから新幹線の移動が約3時間もあり少し退屈でしたが、東京に着くとそんな感情はどこかへ消えていました。

そして、東京に着いて最初のイベントが上野動物園でした。4か所の施設があり、僕は東京国立博物館に行きました。日本や世界の仏像や絵などがおいてありました。一番印象に残っていることは、浮世絵の塗り絵をしたことです。とてもうまくできて嬉しかったです。

上野公園を出た後は、東京スカイツリーに行きました。人生で初めて行くのでも楽しみでした。あいにくその日はと



ても曇っており展望台から景色をみることはできませんでしたが、それでも良い経験になりました。

最後に、シンフォニーディナークルーズに行きました。正直、僕の中ではこの行事が全ての中で一番楽しかったです！この中のバイキングでは、好きなだけ食べることができてしかも美味しかったです。覚えていてだけでも5回は食べ物



を取りに行つたと思います（笑笑）。おすすめはポテトとナゲットです。しかし、僕が紹介したのはバイキングだけではありません。ディナー「クルーズ」ということで、船からの景色も最高でした。またいつか行きたいです。

今回のキャリア研修は人生で5本の指に入るくらいの行事です。この旅の思い出をこれからの宝物にしていきたいと思っています。楽しかったです。

2日目

『企業研修、国会議事堂で東京を学ぶ』

6組 石井 遥菜

2日目の最初の行事は、企業研修でした。私は富士経済グループの本社をたず

ね、マーケティングリサーチについて学びました。富士経済グループでは、様々な企業から情報を収集し、調査レポートにまとめるという仕事をされています。私たちの日常ではなかなか関わる機会のない内容だったからこそ、興味深かったです。また、ふたつのグループにわかれて実際にグミ市場の情報を分析し、売上を予測する体験をしました。意見が割れることもあり、ひとつにまとめる難しさを実感しました。

そして、その後国会議事堂を見学しました。私たちの先輩である、柚木道義さんが案内してくださり、わたしは国会議員という仕事に少し興味を持ちました。国会議事堂は、昔ながらの洋風の建物で、落ち着いた雰囲気を感じました。また、セキュリティがかなり確保されていて、安全に国会に臨めるように工夫されていた。

『東京都内班別自主研修』

1組 石井 このは

2日目の後半、私たちは班別自主研修をしました。これは、事前に班ごとで計画を立てて都内を研修するというもので



す。私達は、新大久保にいきました。最初に、ASOBOARDというキーホルダーが作れるお店に行きました。おそろいのキーホルダーを作ることができて嬉しかったです。その次に、ホットクを食べました。お餅のようでパンみたいな食感で美味しかったです。その後、東京駅に行きました。東京はな奈や東京駅限定味のメー

ブルマニアを買いました。

この班別自主研修を通して気づいたことがあります。それは、カッコいい人や可愛い人がたくさんいたことです。通りすぎるごとに、イケメンだなと思ったり、モデルさんかなと思ったりしました。

このことから、私は都市部で暮らしたいと思いました。理由は、カッコいい人に出会えると思ったからです。しかし、



人が多すぎてすぐ疲れるので、たまには地方に帰ってきたいと思います。

### 3日目

#### 『夢のような場所』

#### 7組 藤井 裕生

僕はキャリア研修3日目に東京デイズニーシーを訪れました。この日を待っていたかのような晴天に恵まれました。デイズニーランドとシーを選択することができましたが、僕はスリル満点のアトラクションがたくさんあるシーを選びました。ホテルを出発して、デイズニーシーに着すると、たくさんの方が門の前で開園を待っていました。僕も開園するのを心待ちにしていました。開園すると、まず最初にタワー・オブ・テラーに向かいました。歩いているとお目当ての高い塔が見えました。人気アトラクションだったので既に四十分待ちでした。とても怖いアトラクションだと友だちから聞いたので、恐怖心を覚えながら待っていました。いざ順番が来ると怖い雰囲気のとでもリアルな部屋に案内され、デイズニーの世界観に入り込みました。アトラクションはとても怖かったですが、スリルと



開放感を味わうことができます。思い出になりました。

その後アクアトピアというアトラクションに乗り、昼食を食べました。午後はレイジング

スピリッツという360度回転するジェットコースターを体験したあと、センター・オブ・ジ・アースに乗りました。デイズニーシーの真ん中に立っている大きな火山の中にアトラクションがありました。自分の番まで研究所のような施設の中を見ながら待ちました。いよいよ乗り物に乗り込むと、いつジェットコースターが始まるのかそわそわしていました。皆さんの不気味な生物や植物が施されていて、音や光などの迫力が印象的でした。そうすると急に乗り物が加速して急上昇、急降下し始めました。途中には外の景色

も見えて、とてもおもしろかったです。ただのジェットコースターだけではなく、デイズニーの世界がとて手凝って作られており、再現されていました。何故か開放的な感覚に引き込まれ、非現実的な世界を体験することができた不思議な空間でした。デイズニーではただアトラクションを楽しむだけでなく、デイズニーの物語を目や耳で体験することができ、まさに夢のような場所でした。

### 4日目

#### 『八景島シーパラダイス』

#### 2組 安原 真路

いよいよ4日目、最終日、僕たちはまだ4日間お世話になったヒルトン東京ベイさんに敬意を込めて「来たときよりもきれいに」の精神で部屋を掃除しました。

その後八景島シーパラダイスと横浜中華街の二つに別れて行動しました。僕は八景島シーパラダイスの方へ行きました。行く道中のバスの車内では、バスガイドさんが江戸川の紹介や地名の由来などを解説してくださったという間に八景島シーパラダイスに着きました。

僕は最初に水族館へ行きました。中

へ入ると様々な熱帯魚の展示が僕達を迎え入れてくれました。奥へ進むと、まるで海の中を間近で見ているような巨大なアクアリウムがありました。そのアクアリウムの中を通っているエレベーターを進むと太陽の恵みをうける生き物たち、深海コーナー、くらげりうむなど、どれも興味を惹かれるような展示ばかりで何回行っても楽しめるような展示がありました。更に奥へ進むと、「Animal Life Live」という水中パフォーマンスショーが行われました。僕は先生方を誘って一緒に見ました。パフォーマンスの中では動物たちが飼育員さんの合図で様々な芸をしてくれました。中でも印象的だったのが、イルカ6頭による曲に合わせたショーでした。水中から激しくジャンプしたり、並走して泳いでいました。僕は自身は人生で初めて水中パフォーマンスショーを見たので感激しました。

その後、僕はアトラクションの方へ行きました。僕はジェットコースターが大好きなので真っ先に乗りました。ピークルが上昇するにつれ、どんどんと最高地点へ近づき、海の景色と横浜の街並みが一望でき、その後一気にスピードが上

り絶景と爽快感で気持ち最高潮でした。どんどんと旅の終わりが近づき、悲しくなる気持ちが大きくなりました。ですが、帰りの新幹線では、初日に曇って見られなかった富士山が頂上付近は惜しくも曇っていたのですが、見ることでできたので綺麗で最高の旅の締めくくりになりました。



## 高2キャリア研修 沖縄方面コース

### 1日目

大橋 遼太

集合時間はいつもの登校時間よりも早めの集合だった。

出発式では校長先生のありがたいお話や私が出発式の生徒挨拶を行い、これから始まるキャリア研修に胸を膨らませていた。朝、学校から広島空港へのバス移動では、カードゲームをしたり、談笑をしたりなどそれぞれ楽しんでた。広島空港到着時には、雨が降っており、またより一層雨が強くなるという予報を聞いて少し心配した。しかし、金光教へのお届けのおかげもあったのか、雨が強くなることはなく無事に飛行機に搭乗することができた。今回の研修旅行で私は5回目のフライトであったが、飛行機から見る沖縄の景色は格別で、時のたつのも忘れて景色に見入っていた。那覇空港を経由し、夕方には新石垣空港に到着した。石垣空港に到着したあとはすぐにホテルに移動し、その後は自由行動となつて、石垣の透明な海を眺め自然の素晴らしさに耽っていた。そして自由行動のあとは

ディナーを食べた。その中には八重山そばやチャンプルなど沖縄の郷土料理がたくさんあった。一日目は移動日ではあったが、沖縄の美しい海や郷土料理など様々な楽しみが詰まった日だった!!

### 2日目

岡田 桃香

朝、ホテルの海辺にてみると虹が出ていてとても気持ちのいい一日の始まりでした。2日目は最初にエメラルドの海が見える展望台に行きました。天気が悪かったのでエメラルドの海ではなかったけれど綺麗な石垣の景色を見ることができ、そこでも虹を見ることができました。次に海上保安庁に行きました。海上保安庁では船の中に入らせてもらい、さまざまな機材を見させてもらいました。特に印象的だったのは双眼鏡です。実際に見るとすごく遠いところまで見えてびっくりしました。海上保安庁の方から話を沢山聞き、とても大変な仕事だと思いました。そして、かっこよかったです。次にやいま村に行きました。やいま村では



ジュシーとやいまそばを食べました。そこでピパーチという沖縄のこしのような調味料も味わいました。少し不思議な



議な味でしたが美味しかったです。その後はマングローブやリスザル、水牛など、たくさん沖縄の動植物に触れました。リスザルとは触れ合うことも出来ました。ちっちゃくて可愛かったです。次は鍾乳洞に行きました。日本最南端の鍾乳洞で自然に出来たとは思えないくらい巨大で涼しくてもっとゆっくり回りたいと思っ

### 3日目

佐藤 遼平

3日目はコース別による石垣島体験学習でした。コースは3つあり、シュノーケリング、マリンスポーツ、離島めぐり等観光コースの3つでした。

私はシュノーケリングのコースを選びました。2日目のグラスボートで想像以上のきれいな海が見ることができたので実際に海に入ってみるとどうなるのかとても楽しみでした。シュノーケリングをする場所に行くまでの船があるところにつくと、一緒に行ってくれる係の方たち



がすでにおられました。まず最初にラッシュガードを着たりするなどの準備をしました。準備ができ船に乗ると、今からみんなとシュノーケリングをして楽しむんだという実感が湧いてきてとてもワクワクしました。船が動き始めると最初はゆっくりだったけどだんだんスピードが速くなってきて、水しぶきがちびちびりしてとても迫力があって面白かったです。潜る場所に到着し、海を見ると中が透き通って見えてきれいな魚がたくさんいました。シュノーケルとフィンをつけて海にもぐりました。最初は波に押されて少し怖かったけれど、教えてくれたこ



とを意識するとだんだん慣れてきて少しずつ泳げるようになりました。友達と協力して泳いだり、きれいな魚を見つけたりして本当に楽しかったです。最後はみんな海に飛び込みました。きれいな海に思い切って飛び込んで、とても気持ち良かったです。キャリア研修で学んだことは一生の思い出になりました。この先も学んだことを活かして日々生活していきたいです。

#### 4日目

日笠 煌太

最終日の移動時間は切なかった。どうも、日笠です。自分は4日目の紀行文を担当することになりました。このキャリア研修が終わってやることですが、とても濃く、短い4日間でした。まず4日目の朝、この日は飛行機やバス移動なども有り、かなり早起きでした。確か5時30分に起床でした。号令係の人は次の日が最終日だったことも有り、昨日の深夜にMonsterをキメて夜更かしをしてしまい、朝起きるのがつらそうでした。最終日で最初に行ったのは、首里城です。自分は首里城が立派な城なんだろうな、とイメージしていたのですが、残念なこと



に首里城は火事があったて工事中でした。首里城の看板には「今しか見られない!! 復興工事中の首里城!!」と書いてあったのですが、自分は首里城にこのときぐらいいしか来れないから本物が見たかったです。ちなみに工事中の首里城はほつま体育館のようでした。次に行ったのは、沖縄県那覇市の国際通りです。石垣島とは別れです。バイバイ。この国際通りでは、お土産を買うスポットが多くありました。自分が買ったのは、紅芋タルト、紅芋まんじゅう、首里石鹸などです。ここでの一番の思い出は石垣牛ステーキを沖縄で食べたことです。昼食は各自で取るようになっていて、自分は「ゴリラパンチ」という店に行きました。そこで皆は、



1000円程度のご飯を食べていたので、自分もそれにしようと思ったのですが、何人かから「石垣牛ステーキを食べろ」「これをいかにと漢じゃない」などと言われ断れない状況になってしまいました。ちなみに石垣牛ステーキは3600円です。大きさはジョイフルのミックスグリルくらいです。結局それを食べました。美味しかったです。このお金の使い方は、あまり良くないと思っていて、このステーキの値段は親にはまだ言えて

いません。次に行ったのは、沖縄県のウミカジテラスです。そこには広大な海が広がっていて、潮溜まりでは大きな魚を見ることが出来ました。一番感動したのは野生のナマコに会えたことです。ナマコは水族館でしか見たことがなかったの、とても嬉しかったです。次に行ったのは那覇空港です。この土地は暗く静かな空が広がっていてとてもきれいな場所でした。特に楽しかったのは、移動時間で、空をずっと眺めていました。そして、夕食が各自空港で買うことになっていたのですが、空港の中の店は満員で、レストランには行けなかったです。結局自分は、コンビニのスパムおにぎりを食べました。先生は何を食べていたのか未だに判明できていません。そして最後に行ったのは、金光学園です。このバス移動のときは、最後の一時を過ごしているようで、切なかったです。バスの中でキャリア研修の出来事を思い出しました。そして、工事中の首里城かと思ったら、見えていたのはほつま体育館でした。その時自分は「ああ、ついに終わってしまったか」という気持ちになりました。このキャリア研修を振り返ると楽しかったこ

とでいっぱいですが、その中にもたくさんの学びがあったと思います。周りの人への配慮、集合時間や集合場所の確認、様々なことを学びました。世のお役に立てる人材になるために必要な行事だったと思います。

### 表紙の言葉

中2 田淵 敬一郎

「裏を見せ表を見せて散る紅葉」

この句から僕は、夕焼けの中、紅葉が散っていく様子をイメージしました。俳句にあるように紅葉の葉の表と裏が散っていくように工夫して掘りました。また、色付けでは、夕焼けを赤や茶色のグラデーシオンで表現しました。

改めてこの句を調べると、表も裏もすべてをありのままに受け入れて生き抜くことが大切だというメッセージが込められていることがわかりました。これから良い事も悪い事も経験して将来に役立てていきたいです。

# ほつま祭

「勇気を出して」

中1 1組 榎野 楓花

私は、ほつま祭に来てくれたお客様に楽しんでもらえるような工夫を意識しながら準備しました。

特に私が意識したことは、「伝えたいことを簡潔に書く」ということです。このことは、私が大阪万博に行つて学んだことです。万博でたくさんのパビリオンを見た中で、そのどれもが作品の良さを分かりやすく、簡潔に説明していました。だから私は、ほつま祭でこのことを意識しようと思いました。

私は、ほつま祭で「未来の食堂」をテーマに模造紙を作りました。来てくれたお客様に分かりやすく伝えるためには、どのくらいの大きさと書けばいいのか、どのことを特に伝えたいのかなどを考えながら作っていました。

ほつま祭当日、私は開始してから十一時まで接客担当でした。頭の中で何度も、

ここはこういうふうに伝えよう、と伝える内容をまとめていました。

放送がかり、1年1組の教室にたくさんのお客様が来てくれました。しかし、さっきまで伝えたい内容を何度もまとめて、どんなふうに言おうか決めたのに、お客様を前にすると、どうしても話しかけられなくなっていました。

「もし失敗したら……」と考えてしまっていました。そんな時、一人のお客様が、最後に私に「とっても素敵だったわ。楽しかった」と言ってくれました。私はその言葉がとても心に残りました。勇気を出して他のお客様に話しかけると、たくさんの方が真剣に私の話を聞いてくれました。

私はほつま祭で、自分の作ったものを人に伝えるのは難しいけれど、やりがいがあることだと思いました。これからのほつま祭でも活かしていきたいです。



「責任を持って取り組んだほつま祭」

中2 3組 藤原 海斗

私のクラス中学2年3組は「世にも奇妙な瀬戸内海」というテーマで展示をしました。このテーマは私が提案したもので、みんなに受け入れてもらえたときは嬉しかったと同時に、責任を感じました。どうすれば来てくれる人に楽しんでもらえるか、瀬戸内海とは何か自分たちで説明できるようにするという目標を立て、みんなと協力しながら作業を進めました。私はスナメリとビーチと海の生物の水槽を担当しました。スナメリは瀬戸内海



にも生活している小型のイルカで、その愛らしい表情を伝えられるよう工夫しました。また、ただスナメリを置くだけでなく、ビーチを一緒に作ることで展示全

体に雰囲気を出し、見に来てくれた人がまるで海の中にいるような気持ちになれるように工夫しました。

ビーチを作るのは思った以上に大変でした。合計二百キログラムの砂をクラスの間と運んでいましたが、袋の隙間から砂がこぼれてしまいました。また、ビーチの木枠を作るのも思っていたより難しかったです。でも、先生やクラスの仲間と協力して仕上げることができました。

さらに、夏休みには実際に瀬戸内のいろいろな所に行きました。渋川水族館や神島ビーチ、与島、瀬戸大橋資料館に行き、海の生物や瀬戸大橋の歴史や作りについて学びました。また、とても高いタワーにものぼり、瀬戸内の景色を一望しました。そうした体験を通して瀬戸内海をより身近に感じ、展示に活かすことができました。

当日は「かわいい」「おもしろい」「すごい」といった感想を聞くことができ、苦労が報われた気がしました。自分が提案したテーマでクラスが一つになり、仲間と協力して完成させた経験はとても大きな自信になりました。また、ほつま祭全体としても、いろいろな展示や劇を見

たり、KOPを見たり、キッチンカーをまわったりしてとても楽しいほつま祭になりました。

今回のほつま祭を通して、仲間と協力して一つのものを創り上げる大切さと、責任を持って取り組むことの重みを学びました。この経験を忘れずに、来年のほつま祭や学校生活にも活かしていきたいです。

「ほつま祭を通して学んだこと」

中3 2組 船尾 謙輔

ほつま祭で、僕たちのクラスは『今日から俺は！』と言う物語の劇を行った。この作品はギャグやアクションが多く、笑いや動きのタイミングはとても難しかったけれど、とてもやりがいのある内容だった。

最初は「ふざけた内容で本当にうまくいくのかな」と疑問もあったが、練習を重ねるうちに、クラスの雰囲気やみんな前向きになっていった気がする。僕は演技経験がなく、初めは恥ずかしさや緊張が大きかった。でも、セリフを覚えたり、仲間と合わせたりする中で、自分の殻を少しずつ破ることができた。特

に、周りが本気でふざけて演じている姿を見て、「自分も思い切ってやろう」と気持ちに変わったことを覚えていた。

また、劇を作るには演者だけでなく、音響や照明、衣装、小道具など、たくさんの方の協力が必要だということにも気づいた。裏方の仕事をしてくれた人たちの支えがあつてこそ成り立っているんだなという実感がして、「目立たないけれどもなくてはならない役割がある」ということを思った。

ほつま祭を通して、「一人ではできないことも、みんなで力合わせれば実現できる」ということを強く感じた。人前では何かを表現することの楽しさや、仲間と一つの目標に向かって努力することの大切さを学ぶことができた。この経験はきっとこれからの学校生活や将来にも生きてくると思う。

### 「ほつま祭」

高1 2組 佐久間瑛大

僕は今回のほつま祭に初めて学級委員として参加したことで、クラス運営の大変さなどを学ぶことができました。今までの中学校のころのほつま祭では



展示が演劇か、なにをやるのかなど、どちらかといえば意見を出すほうでした。当時は正直に言つてクラスのことなど何も考えず今自分がハマっていることをやりたいだとか、現地調査に行きたいからという理由で展示がいいなどと言っていました。

しかし今年は学級委員として意見をまとめる側になりました。様々な意見がクラスで出た中で合体できそうなところは合体させたりしました。また話し合いに何分いるのか、どこに何を作るか、クラスの人々に何時まで残ってもらうかなど自分たちで全て考えました。

そして迎えたほつま祭。僕は「学園神社」おまじりしたらおかげがあるヨ」を作り上げました。当初の案とは違い鳥居は教室中央一個だけでドアには折り紙でつくった鳥居を飾りました。また他クラスがパネルを組み立てて模造紙を貼る中、僕はパネルを使わず、自由に教室を観てもらうことにしました。

また本物の神社さながらのミニ神社にはお賽銭箱を設置し、頂いたお金を宮島厳島神社に募金することにしました。おみくじや絵馬など体験コーナーも盛り上がり、高校展示の部では2位を頂きました。

クラス運営の難しさを知った今回のほつま祭、おかげさまでした。

### 「この思い出を大切に」

高2 6組 浅田 怜美

クラスで展示や演劇として参加するのは今年で最後だからこそ、準備から本番当日まで楽しんでやるのができてよかった。

私のクラスは演劇を選び、私は初めて監督を任された。しかし、私が指示をしなくてもキャスト陣、背景制作班、音響照明班が各々動いてくれたので、人をまとめるのが苦手な私でもあまり気を張らずに監督でいることができた。クラスのみんなには感謝しかない。そして、2年6組の舞台が始まる前、私はみんなが「緊



張する」と言っていた中、「これだけやっただんだから大丈夫だろう」という漠然とした自信があった。結果は高校演技の部第2位で、1位ではなく悔しかったが、みんなとあれほど素晴らしい演劇をすることができて私は満足だ。

また、部活のほうの展示のシフトや本番などとても忙しかったが、それも楽しめた。特に、中1から始めて、今年で最後のコーラス部の舞台は緊張よりも、もう五年もやってきたんだという感慨のほうが大きかった。また私たちの舞台を見てくれた人たちが楽しんでくれているのがうれしかった。ボランティア部は常にお客さんが来てくれていて、大盛況だった。お客さんに展示品の説明をするのを頑張った。演劇同好会もシフトの関係で一日目の最初しか行けなかったが、お客さんが入ってくれていて安心した。私はほつま祭1日目にシフトを詰め込んでいたため、他のクラスの展示を2日目にすべて回ったが、どのクラスも面白かった。



本格的に参加するのは最後のほつま祭で、2年6組のメンバーで演劇ができて、コーラス部の今の部員と舞台に立てて、演劇同好会で劇を撮れて、ボランティア部で良い展示ができて、とても楽しかった。この思い出を大切にしたいと思う。

# 中学 体育会



## 「協力する大切さを学んだ体育会」

1年1組 谷野 楓華

私は、初めての体育会を終えて、先輩のすごさや友達の大切さ、協力することの大切さを改めて実感しました。

私は障害物競走に出ましたがうまくいかず、順位が最後になってしまったことがとても恥ずかしく、みんなにどういう顔で振る舞えばいいのかわからない状況だったのですが、競技が終わったあとテントに帰っていくときに友達が「ほんとにすごかったよー!」「気にしなくていいよ!」と励ましてくれて、本当に心が軽くなりました。

1組のみんなにはとても申し訳ない気持ちでいっぱいだったのですが、みんな責めずあたたかい言葉をかけてくれてとても嬉しかったし、友達がいる良さを深く実感しました。

応援合戦では、ダンスも動きもたくさん覚えることがあってとても大変でしたが、毎日練習を重ねつつ中学3年生の先輩たちが私達を引っ張ってくださって本番を迎えられました。先輩たちは応援合戦にだいぶ力を入れており、熱く燃えて輝いている先輩たちがすごいなと思います。

入りまじった一日でした。

開会式の時雨は降り始め、少し肌寒く、心配したけれど、みんなの気合いが伝わったのか、雨は止み、ちょうど良い気温になりました。おかげで、絶好のパフォーマンスを見ることができました。

僕は、ムカデ競争で補欠として出ました。5人で協力して、次のチームへバトンをつなげることができました。練習はあまりできなかったけれど声を合わせて進めることができました。チームの温かさを実感しました。次に、障害物競走に出場し、第2位に入賞しました。ポールを入れるのが難しかったけれど、どうにか入れてパンをしつかりと噛んで走りきることができました。

学年では一位を取ることができなかったけれど、僕たちのベストを尽くすことができたのでいい思い出になりました。そして、応援合戦では短い期間だったけれど練習した成果を十分に発揮し、見事1位に輝くことができました。さらに、団長やチア、幹部の先輩たちがとてもかっこよく、僕もあんなふうになりたいと思いました。あと二年後に僕たちも今の先輩のように下の学年を引っ張れるような

先輩になりたいです。



## 「本気で頑張る大切さ」

2年2組 河角 愛子

中学生になって二回目の体育会、私は昨年よりとても成長したと実感しました。

私は、四百メートルリレーに参加しました。昨年も参加したのですが、今年も

した。毎日の

練習の成果から、応援合戦の順位は2位になりました。

来年先輩方は高校生になり、もう一緒に応援合戦ができないと考えると寂しい気持ちがありますが、二年後には自分たちと同じように2学年の後輩たちを引っ張って、最後らしく、最高の応援合戦にしたいです。



兄弟学級の部でも惜しくも2位でしたが、学年を超えて1組のみんなと力をあわせて結果を出せて本当に良かったなと思います。来年は今の同じクラスの人はバラバラになると思いますが、またみんなで支えつつ体育会を楽しんでいきたいです。

## 「ベストを尽くした体育会」

1年3組 藤田 流星

初めての体育会は、緊張とワクワクが

とても緊張していました。でも今年は一つ違ったことがありました。私は体育会前日に体調を崩してしまいました。当日も体が重く出ていいのかギリギリまで悩んでいました。でも、前日の夜、少しでも速く走りたくて夜遅くまで練習をしたことを思い出して、出たい! と思い、リレーに参加しました。でも、やはり体が重く、先頭を走っていたのにバトンを渡す頃には抜かされてしまいました。その後、仲間が抜かしてくれましたが、結果は2位でした。1位は仲間の4組でしたが、四百メートルリレーの2年女子以外は2組が勝っていて、黄色に染め上げられなかったのがとても悔しかったです。もう少し速く走れていれば1位を取れていたのではないかなと思ってしまいました。中学校生活で一番悔しかったです。そして、メンバーが集まった時、本当に申し訳なくて泣いてしまったことを覚えています。でもみんながなぐさめてくれて、私は全力を出せなかったけれど、できる範囲のことを頑張れて本当によかったと思っています。

私は、今まで泣くほど悔しいと思ったことがなく、今回の体育会で本気で頑張

ることの大切さを知り、そして心強い仲間との絆を深めることができました。これからもっとたくさんさんの経験をし、成長していきたいと思っています。

### 「みんなでまとまった応援合戦」

2年4組 吉岡さくら

今年の体育会では、たくさんさんの思い出がありました。その中でも特に印象に残っているのは応援合戦です。2年生は、1年生や3年生に比べてクラスの数が多く、2組と4組が合同で一つの団になりました。最初は練習できる期間が限られているし、他の団に比べて人数が多いので、みんなで協力するのは難しいかなと思っていました。しかし、放課後や空いた時間を使ってダンスや掛け声を先輩たちが分かるまで丁寧に教えてくれました。そのおかげで、少ない練習時間を有効に使うことができたと思います。ところが、チアや団長が前に出てもみんなが静かになるのが遅かったり、後ろを向いて友達とおしゃべりをしていたりする人がたくさんいて指示がなかなか通っていませんでした。そこで、友達と話し合いをして私たち一人一人が移動を早くかけ



足でしたりして、先輩に迷惑をかけないように自分たちなりに工夫をしました。すると、徐々に団がまとまってきて本番では練習した中で一番いいパフォーマンスができました。優勝することはできませんでしたが、兄弟学級みんなで力を合わせて応援合戦ができてとても楽しかったです。

来年は私たちが中心となって先輩たちが今年してくれたことを先輩たちにしっかりと伝えていきたいと思いました。もう一つうれしかったことは、2年4組が学年の部で第2位になったことです。ほつま祭に続いてクラスの団結力が高まった結果だと思っています。次の行事である三学期の球技大会でも今よりもっとみんなが一致団結してよい結果を残したいです。

### 「この仲間とだから」

3年1組 菅ノ又七海

今年の体育会では、1組のチアとしてみんなを引っ張る役になりました。1組のテーマは「大胆不敵 RISE AS ONE」。この言葉のように、どんなことにも恐れず挑戦し、みんなで一つになって最高の演技をつくりあげることが目標になりました。

団の練習で最初は動きがそろわず、思うようにいかないこともありましたが、みんなで声を掛け合いながら練習を重ねるうちに、少しずつ気持ちが一つになっていくのを感じました。はじめは、このメンバーをうまくまとめていけるか不安でしたが、話し合いを重ねていくうちに仲良くなることができました。本番では、緊張よりも「絶対に最高の演技にしよう」という強い気持ちで挑みました。最後の「1組最高!」と言ったあとのみんなの表情はとても輝いていて、私も心から楽しむことができました。結果は2位。うれしい気持ちもありましたが、あと一歩届かず1位になれなかった悔しさがこみ上げ、思わず涙が出てしまいました。そんな時、「このメンバーで頑張れてよかつ



た」「最高の思い出になった」という声を聞いて、悔しさの中に温かい気持ち広がって、涙が笑顔に変わりました。

この体育会を通して、私は「挑戦する勇氣」と「仲間と信じあう大切さ」を学びました。そして何より、この幹部のメ

ンバーで頑張れたことを誇りに思います。お互いに励まし合い、支え合いながら乗り越えた時間は、これからの自分の力になると思います。体育会で感じた一体感と感動を忘れずに、これからも仲間と協力しながら前向きに頑張っていこうと思っています。

### 「最高の体育会」

3年2組 戸田 遥

私はこの体育会を通して、また一段と団結力を感じました。応援合戦や競技などたくさんありましたが、特に心に残っているものが二つあります。

一つ目は応援合戦です。私は幹部ではなくクラスメイトとして練習を励みましたが、2・4組のみんな全員がダンスを覚えようと一生懸命取り組んでいるのが伝わってきました。

本番では、この短時間で積み上げてきた8分間に、2・4組の思いや成功させたいという気持ちがつまっております、やり切ったという達成感に包まれました。この応援合戦は、たとえ3位でも他のクラス以上に自分たちの力、団結力、盛り上がりを見せることができたと思っています。

す。また、人をまとめることは簡単ではないので、今まで多くの人数をまとめてきてくれた幹部のみんなを本当に尊敬しています。



二つ目は長縄跳びです。

長縄は体育の練習の時にあまり良い記録が出せず、圧倒的に回数が他クラスに負けていました。時には全く記録が出せず、いざこざになりました。時には全く記録が出せず、本番では、ほつま祭の時から続けている2組の円陣によって、クラスみんなの心に火がつき、長縄跳びで一位をとることができました。練習のときは全然跳ぶことができず、諦めかけていましたが、全員本番に強く無事に笑顔で終えることができました。これがそがクラスが一つになった瞬間でした。この喜びは今でも私の心に刻まれています。この体育会を通して、2組の団結力が



改めて一つに  
なったと実感  
しました。全  
体では、1位  
というものを  
取ることがで  
きませんでし  
たが、自分  
の中では最高  
に楽しむこと  
ができ、一生  
の宝物になり  
ました。

## 「団結力」

### 3年3組 近藤 克信

中学最後の体育会で、私はクラスの一  
員として団長、チア、副団長、副チアに  
ついていきながらも自分のできることは  
やろうと考え行動することができました。  
また、最高学年になって初めて、1年か  
ら3年までのみんなをまとめることがこ  
んなに大変だったのだと気づきました。  
団長がいくら注意しても静かにならない  
後輩たちを見ていると、改めて今までの  
先輩方のすごさを感じました。しかし、

今年の体育会でも、兄弟学級が最後はしつ  
かりまとまったチームになりました。また、  
今まで以上に団結力を感じました。自分  
のチームが勝ったらみんな喜び、負け  
てしまっても出場した選手を励ます  
ということが、どのクラスよりもで  
きていたと思います。まったく知ら  
ない人でもハイタッチをしたり、全  
力で応援をしたりしていると、チー  
ムの心が一つになるのを感じました。  
また、僕が一番強く感じたのは、  
3年生の団結力でした。一人が何か  
しようとしたら、それにクラスのみ  
んながついていき支えるということ  
が3年生全員できていたからこそ、  
後輩たちもついてきてくれたのだと  
思います。球技大会とはつま祭で団  
結力をつけて、その団結した力を後  
輩に見せることでまとまりをつくり、  
最高のチームをつくることのできた  
のだと思います。

このチームをつくってくれた団長、  
チア、副団長、副チアの人たちが毎  
日遅くまで学校に残り、体育会のこ  
とや3組のことを考えてくれたおかげ  
で、一人残らずクラスがまとまり、



みんなが楽しむことができました。  
この経験を活かして、今後は私も人を  
まとめる立場になってみたいと思いまし  
た。本当に心に残る体育会でした。

## 令和7年度 大学入試合格者数一覧

合格者数(現浪合計) 令和7年7月現在

| 国立大学             | 合計27      |
|------------------|-----------|
| 筑波大(1)           | 千葉大(1)    |
| 東京大(1)           | 新潟大(1)    |
| 静岡大(2)           | 京都教育大(2)  |
| 神戸大(2)           | 奈良女子大(1)  |
| 鳥取大(4)           | 岡山(大)(5)  |
| 広島大(1)           | 香川大(1)    |
| 愛媛大(2)           | 高知大(1)    |
| 九州大(1)           | 琉球大(1)    |
| 公立大学             | 合計5       |
| 岡山県立大(1)         | 福山市立大(2)  |
| 叡啓大(1)           | 高知工科大(1)  |
| 私立大学             | 合計29      |
| 獨協大(1)           | 亜細亜大(1)   |
| 学習院大(3)          | 慶應義塾大(2)  |
| 國學院大(2)          | 駒澤大(1)    |
| 駒沢女子大(1)         | 順天堂大(2)   |
| 女子美大(1)          | 聖心女子大(1)  |
| 専修大(2)           | 創価大(1)    |
| 拓殖大(1)           | 玉川大(1)    |
| 多摩大(2)           | 中央大(4)    |
| 東海大(1)           | 東京電機大(1)  |
| 東京理大(2)          | 早女子体大(1)  |
| 明治大(1)           | 明治学院大(1)  |
| 明星大(1)           | 立教大(5)    |
| 立正大(1)           | 東京未来大(1)  |
| 神奈川大(1)          | 関東学院大(1)  |
| 東京工芸大(1)         | 朝日大(1)    |
| 愛知医大(1)          | 名古屋学院大(1) |
| 愛知工科大(4)         | 京都産業大(10) |
| 京都市大(1)          | 京都芸術大(1)  |
| 同志社大(8)          | 同志社女大(1)  |
| 専門学校等            | 合計11      |
| 横浜高等製菓教育専(1)     |           |
| 京都製菓製パン技術専(1)    |           |
| 辻調理師専(1)         |           |
| 岡山高等歯科衛生専(1)     |           |
| 岡山情報ビジネス専(1)     |           |
| 倉敷中央看護専(1)       |           |
| 川崎リハビリテーション学院(1) |           |
| 倉敷看護専(1)         |           |
| 福山医療専(1)         |           |
| 中国職能大専科(2)       |           |
| 私立大学             | 合計29      |
| 立命館大(1)          | 龍谷大(1)    |
| 追手門学院大(1)        | 大阪医大(2)   |
| 大阪芸大(1)          | 大阪工大(1)   |
| 奈良女子大(1)         | 大阪産大(6)   |
| 関西大(9)           | 関西外大(2)   |
| 近畿大(19)          | 摂南大(1)    |
| 桃山学院大(4)         | 甲南大(1)    |
| 関西学院大(14)        | 甲南大(8)    |
| 神戸学院大(37)        | 神戸国際大(1)  |
| 武庫川女子大(1)        | 関西福祉大(4)  |
| 天理大(1)           | 奈良大(2)    |
| 岡山商大(1)          | 岡山理大(1)   |
| 川崎医療福祉大(16)      | くまがや大(3)  |
| 岡山陽明大(1)         | 就実大(10)   |
| 清心女子大(12)        | 環太平洋大(3)  |
| 岡山医療大(2)         | 広島経大(1)   |
| 広島工大(1)          | 広島修道大(2)  |
| 広島文教大(1)         | 福山大(6)    |
| 安田女子大(5)         | 広島国際大(1)  |
| 松山(大)(2)         | 日本経大(1)   |
| 福岡大(2)           | 久留米大(1)   |
| 茗荷谷大(2)          |           |

## 入賞おめでとう

### ▼第71回 青少年読書感想文

#### 岡山県コンクール

#### 【中学生の部】

|        |       |
|--------|-------|
| 県入選…中3 | 吉野 里音 |
| 中2     | 板野 絹  |
| 中1     | 西山 心和 |
| 県佳作…中3 | 平井 慶太 |
| 中2     | 渡邊 昂  |
| 中1     | 岡本 和磨 |
|        | 田中 絵葉 |

#### ▼ライオンズクラブ主催国際 平和ポスターコンテスト

|         |      |
|---------|------|
| 最優秀賞…中1 | 渡邊心彩 |
| 優秀賞…中2  | 河角愛子 |
| 中1      | 雀部春陽 |

#### ▼令和7年度人権啓発標語 優秀賞…中2

|       |
|-------|
| 金光 育乃 |
| 長尾 羽奈 |

#### 【高校生の部】

|        |       |
|--------|-------|
| 優秀賞…高2 | 天野 花菜 |
| 佳作…高2  | 岡野 寿美 |

#### ▼令和7年度明るい選挙啓発 ポスターコンクール

|       |      |
|-------|------|
| 入賞…中2 | 柚木柚七 |
| 中1    | 萬木夢乃 |



# 生徒会活動

《生徒会》 ほつま祭は、「学園万博2025」脈々と受け継ぐ伝統」を統一テーマに、9月20日(土)～21日(日)に行われた。猛暑を避けるために、例年よりも2週間、時期を後ろ倒しして開催した。依然として暑さが残る中ではあったが、例年よりは過ごしやすいう2日間となった。高2以下の各クラスは、展示・演技のいずれかの部門に参加し、夏休み前から取り組んできたものを発表した。クラスとKOPは「コンテスト形式」で開催した(後段参照)。文化部、同好会が展示部門に、書道部、ダンス部、音楽部吹奏楽団、音楽部コーラス、軽音楽部が演技部門に参加し、日ごろの活動の成果を発表した。1日目の高3有志の模擬店は、地元のお店から食品を仕入れて販売する形で、生徒が生き生きと活動する姿が見られた。また、やつなみ保護者会は、ステンドグラスやハンドクラフトなどの展示や友愛

セールとして予約販売などを行った。また、今年3年目となる「学園マルシェ」では、引き続きキッチンカーや麦ばたけ、セブンイレブンの出店などで、大盛況であった。

なお、コンテストの結果は次のとおりである。

《中学展示の部》  
第1位(1年1組)「大人気!金光学園パビリオン☆予約不要☆」  
第2位(1年3組)「すばらしい提案をしよう。君もミyakミyakにならないか?」  
第3位(2年3組)「世にも奇妙な瀬戸内海」  
《高校展示の部》  
第1位(2年7組)「君はこの謎を暴けるかな? 真実はいつも1つ!」  
第2位(1年2組)「学園神社」おまいりしたらお和賀があるヨ」  
第3位(1年3組)「金光学園・learnめん・つけめん」あしたの3(さん)二郎」  
《中学演技の部》  
第1位(3年3組)「赤ずきん」裁判」  
第2位(2年1組)「ろっくん・あつぷ」  
第3位(2年2組)「転校したらクラス全員が厨二病だった件」  
《高校演技の部》

第1位(2年5組)「異臭廻戦」  
第2位(2年6組)「絶えつ対に死刑だ!」  
第3位(2年1組)「どこかの国の白雪姫」  
《中生徒会》 10月25日に中学体育会が行われた。当日は小雨で天気心配されたが、徐々に回復。午後は天候に恵まれた。今年はほつま祭が終わった後、地区大会と中間テストを挟んだので、取り組みは、テスト後6日という厳しい日程だったが、3年生を中心に団結し、素晴らしい応援合戦を展開した。中3によるマステージ「青春革命2025」THE FINAL SHOW」は学年の団結を感じさせた。学年の部第1位は1年1組、2年2組、3年3組、兄弟学級の部、第1位は3組、応援の部第1位は3組であった。  
「リレククリーン作戦」も体育会後からスタートしている。「日頃お世話になっている町内やJR金光駅に対し、お礼(感謝)の気持ちを清掃という形で表す」「登下校のマナーについて考える機会とし、学園の仲間が清掃することによってゴミをしない、迷惑をかけないという意識を各々に育てる」を目的とし、クラス、生徒会事務局がチームを作り、金光駅から学園までの主に通学路を中心に清掃活動

をしている。

《高校生徒会》 高校体育会は、ほつま祭と同様、猛暑を避けるために例年より2週間後ろ倒しして日程を組んだが、雨天のため9月27日(土)に延期して開催した。土曜日実施となったため、午前中で終了するように競技の一部を変更して行った。体育会は、青ブロック(2年1・2・3組)が優勝、橙ブロック(3年2・3・5組)が第2位となった。

ことで、日頃の活動の成果を発揮することができた。11月1日に行われた浅口市主催「まなぼーや さつきっ子教室」科学工作にボランティアとして参加し、小学4年生から6年生と一緒に割りばし鉄砲を作製し、遊ぶ手伝いをした。11月3日に行われた第23回ワクワク ドキドキ科学であそぼう2025ではプラバンのブースを企画・担当し、多くの来場者に楽しんでもらった。

また、10月31日(金)に予定していた高1・2秋季球技大会は、雨天のため今年度は中止となった。

《書道部》 「第51回ふれあい書道展」において、高2小寺希果、高1下梶碧子、中1友瀧楓が特選、高1長谷川向夏花、赤澤那奈、川原雪乃、中3石井結菜が奨励賞、中2赤澤暖が敢闘賞を受賞した。「第54回全国高校書道展」において、高2小寺希果が準特選、高1長谷川向夏花、赤澤那奈、川原雪乃、下梶碧子が入選を受賞した。ほつま祭では、昨年に引き続き、体育館で書道パフォーマンスを披露した。また、展示にも取り組み、日々の練習の成果を発表した。

《天文部》 11月1日(土)レモン彗星をターゲットにした特別観測を行った。

双眼鏡や小型望遠鏡で観察する共にC14反射望遠鏡では写真を撮ることに成功した。

校内合宿をしていた生物部も合流して、共に彗星や月の観測を行った。

《茶道部》 8月3日にはOB・OG茶会を行った。OB・OGの方々から当時の話も聞くことができた。ほつま祭では9月21日に限定二百席でお茶席を設けた。

《科学部》 毎週月曜日と金曜日に、興味を持った内容について調べ、試行錯誤しながら楽しく実験を行った。ほつま祭では、夏休みの自由研究を模造紙にまとめ展示したり、サイエンスショーの披露や、お客様に実験を体験してもらったりする

《茶道部》 8月3日にはOB・OG茶会を行った。OB・OGの方々から当時の話も聞くことができた。ほつま祭では9月21日に限定二百席でお茶席を設けた。

生徒は、お点前、亭主、お運びとそれぞれが日ごろの練習の成果を発揮した。Radford Collegeと春川女子高校来校中は、姉妹校の生徒と一緒に茶道を通じて交流した。10月30日には関西金光学園との姉妹学園提携調印式の後、碧水庵のご案内し、おもてなしのお茶会を行った。11月22日、23日に、金光町の要計庵で行われた「町家deクラス」の茶道体験と「つながる和時間」のカフェとして抹茶ラテの提供をした。

《音楽部吹奏楽団》 7月5日(土)120音楽室にて絆の会総会が行われ、「20世紀FOXファンファーレ」「オーメンズ・オブ・ラヴ」「星影のエール」「喜びの歌」「GUTS」を演奏した。7月15日(火)倉敷市営球場にて第107回全国高等学校野球選手権大会岡山大会が行われ、おかやま山陽高等学校との試合で応援演奏を行った。8月2日(土)ピオス憩いの広場にて第75回倉敷市曜夜市の夜市ステージが行われ、「20世紀FOXファンファーレ」「オーメンズ・オブ・ラヴ」「ロックンロールキャバレー」「勇気100%」「星影のエール」「GUTS」を演奏した。9月20日(日)ほつま体育館にてほつま

祭が行われ、「20世紀FOXファンファール」「オーメンズ・オブ・ラヴ」「星影のエール」「勇氣100%」「プレゼント」「青と夏」を演奏した。9月26日（金）120大講義室にて京都アメリカ大学コンソーシアムのウエルカム演奏を行い、「20世紀FOXファンファール」「オーメンズ・オブ・ラヴ」「プレゼント」「勇氣100%」を演奏した。10月22日（水）120大講義室にて春川女子高等学校のウエルカム演奏を行い、「20世紀FOXファンファール」「オーメンズ・オブ・ラヴ」「プレゼント」「勇氣100%」を演奏した。11月6日（木）「GUTS!」を演奏した。11月6日（木）はつま体育館にて創立131年記念式が行われ、「校歌」「君が代」「神人の栄光」「Everything for a dream」を演奏した。11月9日（日）横浜みなとみらいホールにて第27回全日本高等学校吹奏楽大会「横浜が行われ、「空より高く」「ファンファール」「蒼天の光」「20世紀FOXファンファール」「オーメンズ・オブ・ラヴ」を演奏した。また同日、クイーンズスクエアにてプロムナードコンサートが行われ、「20世紀FOXファンファール」「オーメンズ・オブ・ラヴ」「プレゼント」「GUTS!」「星影のエール」「ロックンロー

ルキャバレー」を演奏した。11月15日（土）倉敷市民会館にてバンドフェスティバルが行われ、岡山県立玉島高等学校、作陽学園高等学校と3校合同で参加し、「ファンファール」「蒼天の光」「空より高く」「By the clouds」を演奏した。《音楽部「コーラス」》7月24日（木）に金光学園サマースクールに通う小学生と一緒に歌を歌ったり、遊んだりして交流を図ることができた。7月30日（水）～31日（木）にかけて全国高等学校総合文化祭香川大会に出場した。今回は初めて岡山県合同合唱団を組織し出演した。30日は合同練習を児島でしていたが、津波警報のため途中で中止。安全を確認した後、香川県に入り、前日の合唱講習会と生徒交流会に参加した。31日の大会当日は全10校230名あまりの大合唱で、感動的な演奏をホールに響かせることができた。【曲目】混声合唱曲集「光と風をつれて」から「あいたくて」「はじまり」8月3日（日）～4日（月）にかけて夏合宿を実施した。合宿を実施するのはコロナ禍以来である。初日は練習をした後、夕方から保護者向けのミニコンサート

トを実施した。ミニコンサートでは部内アンサンブルコンテストも行い、保護者の方の投票も含め順位を争った。2日目は午前中に金光学園こども園、午後は特別養護老人ホーム「寿光園」とそれぞれ訪問演奏をさせていただいた。こども園ではアニメソングや童謡を中心に歌い、手遊びと一緒に楽しんだ。演奏会後は教室に分かれてふれあいをして交流を深めることができた。老人ホームでは懐メロを中心に歌い、こちらも手遊びと一緒にするなど交流を深められた。どちらも自分たちの演奏を目の前で聴いてもらうことができ、反応を直接感じるこ

《中・高新聞部》 来年発行されるはつま新聞2面の記事として、はつま祭での高3模擬店の様子を取材した。《中美術部》 はつま祭では、中高合同で展示を行った。熱心に制作にはげみ、子ども絵画コンクールに出品した作品など、例年よりも多くの作品を展示することができた。

《中・高放送部》 中高共々、学校行事の屋台骨として、式典の機材準備やアナウンスを担当した。

高校生は第49回総文祭に以下の生徒が出場した。

アナウンス部門……高2初瀬七彩・川上紗季／高1木之瀬由奈  
朗読部門……高2小平悠羽里／高1松永奈々・松田琴音

《軽音楽部》 はつま祭では、緊張しながらも、日頃の練習の成果を発揮してステージ発表をやり遂げた。お客さんとの一体感を創り出すように工夫し、気持ちのこもった歌唱、演奏を披露し、部員たちも存分に楽しみ、達成感を得ることができた。次のイベントに向けて、日々練習に励んでいる。

《中ソフトテニス部》 7月5日に笠岡総

合スポーツ公園で行われたチャレンジカップでは、男子I部に6ペアが出場し、田中・福地ペアが初戦敗退、中野・仁科嘉奥野・木曾、岡森・鳴本、川野・金藤ペアは2回戦敗退、田村・仁科陸ペアは3回戦敗退であった。女子II部は3ペアが出場し、豊田・OP、柴田・山本、横野・渡邊ペアが予選敗退であった。

新チームになって8月23日に第14回天野カップ中学生ソフトテニス研修大会に男子が1チーム出場し、ベスト4に入った。9月15日に中国・四国中学校選抜ソフトテニス大会に男子1チーム、女子1チームが出場、女子は決勝トーナメント初戦、男子は決勝トーナメント2回戦で敗退した。10月4日・5日に笠岡総合スポーツ公園で行われた備南西地区秋季大会では、男子個人戦に4ペアが出場し、仁科・田中ペアが初戦敗退、中野・木曾、川野・金藤ペアが2回戦敗退、岡森・小山ペアがベスト8で県大会への出場権を獲得した。男子団体戦では予選リーグで美星中学校に2―1で勝利、井原中学校には1―2で敗退し、決勝トーナメント進出を逃した。女子個人戦には2ペアが出場し、柴田・豊田、横野・山本ペアが

初戦敗退であった。女子団体戦では予選リーグで金光中・笠岡東中にいずれも0―3で敗れ、決勝トーナメント進出を逃した。11月1日に水島緑地福田公園で行われた秋季県大会では、岡森・小山ペアが倉敷第一中に4―0で勝利し、2回戦では香和中に2―4で敗退した。

《高ソフトテニス部》 8月3日に備前テニセンターで行われた交流大会では、団体戦の形式で2チーム出場した。練習試合も含めて多くの試合をすることができた。9月20日に玉島の森テニスコートで行われた新人戦（ダブルス）地区予選会では、川合・村上、黒川・圓福寺、原田・濱田ペアが初戦で敗退した。青木・石岡ペアはベスト4で敗退し、代表決定戦で6位に入り、県大会への出場権を獲得した。11月1日に浦安総合公園テニスコートで行われた岡山県高校新人ソフトテニス大会（団体）では初戦で倉敷天城高校に2―1で勝利し、2回戦で岡山南高校に0―3で敗れた。11月8日に水島緑地福田公園で行われた岡山県新人ソフトテニス大会（ダブルス）では、青木・石岡ペアが初戦で明誠高校に1―4で敗退した。

《卓球部》 8月20日にカデットシングルス大会に参加した。男子シングルス13歳以下では千葉（L1）が4回戦進出、吉本（L1）が3回戦進出であった。男子シングルス14歳以下では浅野（L2）が3回戦進出、山下（L2）が2回戦進出であった。女子シングルス13歳以下では中尾（L1）が2回戦進出であった。9月7日に総社市長杯に参加した。男子シングルスでは浅野と千葉が予選を1位で通過し、決勝トーナメントに進出した。9月28日に福山U18オープンに参加した。

中3・中3男子2部で大橋（L3）が予選リーグ1位で順位リーグで3位に、浅野が予選リーグ1位で決勝トーナメントで2位に、高橋（L2）が予選リーグ1位で決勝トーナメントでベスト4に入った。

10月4、5日に備南西地区秋季大会に出場した。男子団体では3勝3敗の4位で県大会出場を決めた。女子団体では3勝1敗の2位で県大会出場を決めた。男子シングルスでは千葉がベスト8に入り県大会出場を決めた。女子シングルスで

は杉本（L2）が11位に入り県大会出場を決めた。

11月1、2日に岡山県秋季大会に出場した。男子団体では予選リーグで真備東に1-3、西栗倉に3-0、瀬戸に1-3の1勝2敗で予選を敗退した。女子団体では予選リーグで竜操に0-3、蒜山に3-2、総社に1-3の1勝2敗で予選を敗退した。男子シングルスでは千葉が2回戦に進出した。女子シングルスでは杉本が1回戦敗退であった。

11月8、9日に総社市長杯卓球大会に出場した。男子団体ではAクラスが予選リーグ3位で敗退した。Bクラスも予選リーグ3位で敗退した。カデット男子シングルスでは浅野、山下、千葉が予選リーグを1位で通過し、千葉が決勝トーナメント2回戦に進出した。

《高卓球部》 7月14日国スポ予選に出場し、男子の部でU2安藤がベスト16、U2藤井がベスト32、U1黒川・U2岸・小谷がベスト64、女子の部でU2藤原がベスト32となった。

8月21日県高校学年別大会に出場し、高2男子の部で安藤・藤井がベスト16、小谷がベスト32、高1男子の部で清水が

ベスト32となった。

8月25日、26日県高校秋季大会学校対抗に出場し、男子が昨年度の同大会以来の5位入賞を果たした。

9月13日全日本ジュニア予選に出場し、男子の部でU2藤井・U1清水がベスト32、U2岸・小谷・U1金子がベスト64、女子の部でU2藤原がベスト64となった。

10月25日、26日県高校新人卓球大会学校対抗において、男子が第3位となり、12月20日から広島県呉市総合体育館で開催される中国大会への出場権を獲得した。

《高サッカー部》 高円宮杯U-18サッカーリーグ2025OKAYAMAチャレンジャー（前期）の続きの結果は次の通りである。6月22日、対一宮（0-0）、7月6日、対大安寺（3-4）、7月12日、対高梁新見（0-4）。7月13日、対白陵（0-0）。9月7日に練習試合を行い、対笠岡（2-0）。9月13日、岡山県高校サッカー選手権大会に出場し、対城東（0-4）という結果であった。9月28日、玉島高校と練習試合（30分×3）を行い、結果は（0-2）、（2-0）、（0-3）。高円宮杯U-18サッカーリーグ2025

OKAYAMAチャレンジャー（後期）の途中結果は次の通りである。10月5日、対美作B（1-3）。11月3日、対大安寺（1-5）。11月16日、対白陵（0-1）。11月22日、対東岡山工業C（0-1）。11月24日、対玉島商業（1-2）。

《柔道部》 7月19、20日に岡山武道館で、令和7年度岡山県中学校総合体育大会柔道競技が行われた。男子団体戦は1回戦に津山市立加茂中学校と対戦し、1-4で敗れた。男子個人戦では6名、女子個人戦には1名がそれぞれ出場し、善戦した。8月13日から17日までジップアリーナ岡山で令和7年度全国高等学校総合体育大会柔道競技大会が行われた。本校から中学生1名及び高校生17名がボランティアとして参加した。

10月4日に里庄武道館で、令和7年度岡山県中学校体育連盟備南西地区秋季柔道大会が行われた。男子団体戦は笠岡彰善館に敗れた。個人戦では男子5名女子1名の計6名が出場し、階級別で中2西原琉紀有、兒玉陽が1位になった他、男子団体戦と個人戦5名が県大会の出場権を得た。

10月25、26日に岡山武道館で令和7年

度岡山県高等学校新人柔道大会が行われた。男子団体戦では1回戦に県立玉野光南高校に敗れた。男子個人戦では6名が出場し、90kg級で高2大島佑友が第3位となり、1月に行われる全日本柔道強化指定選手選考会の岡山県予選会への出場権を得た。さらに男子個人戦無段の部軽量級で高2千田祐揮が優勝、無段の部重量級で高2小寺功祐が2位となるなど、それぞれが善戦した。

《中剣道部》（県大会） 7月19日（土）に宮本武蔵顕彰武蔵武道館で開催され、男子個人試合に2年の藤田耀広が出場し1回戦で敗れた。

《備南西地区秋季大会》 10月4日（土）に笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、男子個人試合に2年の高島蒼希、中桐大地、藤田、1年の岡本和磨が出場した。高島が準優勝し県大会出場権を獲得した。中桐は1回戦で藤田、岡本は2回戦で敗退。男子団体試合は2位で県大会出場権を獲得した。

《県秋季大会》 11月1日（土）・2日（日）にみまさかアリーナで開催され、男子個人試合に高島が出場し、2回戦で敗退。男子団体試合は1回戦シード、2回戦は

和気中学校に勝利し3回戦で倉敷南中学校に敗れた。

《記念稽古会》 奉祝「金光学園創立百三十一周年」「剣道部創部百二十一年」を心よりお祝いし、11月6日（木）に記念稽古会を行い、快い汗を流しました。お世話になりました多くの方々にお礼を申し上げるとともに、ご報告いたします。

《中少林寺拳法部》 八月一日〜三日に都城市で行なわれた全国中学生大会に出場した。男子単独演武で中3吉田喬、中2前川章海が準決勝進出、女子単独演武で中3三村心都が準決勝進出、男子団体演武が10位、女子団体演武が8位であった。《高少林寺拳法部》 十一月二日に岡山工業高校で行なわれた岡山県新人大会に出場した。男子自由単独演武で高2田淵伸太郎が4位、高2能宗智が5位、女子自由組演武で高2井藤ひより・高1岡部倅歩が1位、高1小野さくら・高1白神凜が2位であった。以上の者は中国新人大会への出場権を得た。

《中男子バスケットボール部》 10月4、5日に備南西地区秋季新人大会（バスケットボール競技の部）が天草運動公園体育館で行われた。1回戦では、笠岡東中学

校と対戦し42―51で勝利し、翌日の決勝戦では、里庄中学校と対戦し55―51で敗退し本大会を2位で終えた。県大会出場はできなかったが、次につながる良い経験となった。

《高女子バスケットボール部》 9月14日(日)に、ウィンターカップ2025岡山県予選会に出場し、初戦岡山高校と対戦した。高校1年生5名の部員で、途中怪我で4人で戦う局面もあったが、そこから勢いを増し、67対49で、初勝利を収めた。二回戦目は興陽高校に93対20で敗れた。

《ダンス部》 7月は、高校野球の応援にかけつけた。8月2日には、毎年参加している玉島ハーバーダンスに参加。今年度は衣装を新調し、ピンクと白のかわいい色合いの法被で、息の合ったダンスを披露した。ほつま祭では、「最強世代」22本の衝撃」をテーマに、高2を中心として、心血を注いで作り上げてきたダンスを思い切り披露し、感動のステージとなった。

《木綿崎ボランティア部》 2学期も、土曜スクールに参加している小学生の活動補助を、毎週土曜日の午後に行った。ほつま祭では、5月から大和被服株式

会社さんと共働で、廃棄予定の消防服を再利用しての防寒コートや、クッションカバー兼避難バッグなどを考案し、計18点を製縫して「消防服のリメイク」作品を展示発表した。

また、春に植えたアサガオ(交通事故で亡くなったけんちゃんが残した種)から種を取り、蔓を使ってリース作りを行った。リースは、土曜スクールに参加している小学生と一緒に交通安全を願って飾り付けを行い、玉島警察署に寄贈した。今後、派出所などに飾っていたく予定。11月24日に、浅口市防災フェアに参加。防災に対する意識を高めると共に、消防服リメイク作品の展示紹介を行った。

この他、インターハイの運営スタッフボランティアや、赤い羽根の募金活動など、県や市からの依頼を受けての活動を行った。

《ラグビー部》 現在は、選手一名、マネージャー一名の二名だけの部員であるが、放課後に練習に励んでいる。

《水泳》 6月に行われた岡山県高等学校総合体育大会水泳競技の部で、高2田口大輝くんがバタフライ200mで第3位、バタフライ100mで第4位、高1中原桃子さ

んが個人メドレー200mで第6位となり、7月に鳥取県で行われた中国高等学校選手権水泳競技大会へ出場した。中国大会では、バタフライ100mで田口くんが58秒07で8位入賞を果たした。

8月に行われた岡山県高等学校新人水泳競技大会で、高2田口大輝くんがバタフライ200mで第3位、バタフライ100mで第3位、高1中原桃子くんが、個人メドレー200mで第5位となり、10月に山口県で行われた中国高等学校新人水泳競技選手権大会に出場した。中国新人大会では、バタフライ200mで田口くんが2分10秒28で7位入賞を果たした。

## 学園だより

サマーチャレンジ 7月28日から30日に、特別進学クラス全員と総合進学クラスの希望者を対象に、サマーチャレンジを実施した。3日間で集中的に発展的な学習に取り組んだ。

サマーイングリッシュビレッジ 7月28日から30日にサマーイングリッシュビレッジ初級を、7月31日から8月2日に中級を実施した。生徒10人に対して1人の割合で外国人講師がオールイングリッシュの授業を行った。

ニュージランド現地校交流プログラム 7月31日から8月10日に、ニュージランドのJohn Paul Collegeに生徒8名と引率教員1名の計9名が訪問した。授業や研修をホストと一緒に体験するなど、充実したプログラムの中、互いの絆を深め合った。

教職員夏期研修 8月20・21日、全職員が参加して38回目の夏期研修が行われた。一日目は岡山理科大学 松本一郎先生

による講話「性の多様性を認め合う教育のために」と、岡山県教育庁人権教育・生徒指導課 和氣史弥先生による講話「いじめへの対応について」を聞き、質疑応答を交わすことで、実り多き研修会となった。二日目は玉島消防署 西出張所の方々による救命講習が行われた。

一日体験入学パートⅢ 8月23日、中学生を対象としたオープンスクールを開催した。8時30分から中学生と保護者対象に授業体験、部活動体験、説明会などを行った。

始業式 8月25日、ほつま体育館工事のためオンラインにて2学期始業式が行われた。

中3進路講演 8月27日、中3進路講演として高校教務課長から「高校生を目指すみなさんへ」と題した講演が行われた。学習習慣の確立の重要性や、様々なことにチャレンジするなど、将来の高校生活を充実させるために、今どう過ごすべきかを学んだ。

教育実習 9月1日から13日、または20日の2週間、ないしは3週間に卒業生9名が実習を行った。  
金光学園杯小学生招待バレーボール大会

9月7日、第21回となる大会が小学生16チームを招待し、ほつま体育館で開催された。

ほつま祭・一日入学体験パートⅣ 9月20日から21日にはほつま祭が開催された。猛暑を考慮した日程であったが、高3有志によるバザール、保護者の方によるキッチンカー、学園マルシェなど飲食も充実し、大盛況の2日間であった。

ラッドフォード校来校 9月23日から29日に姉妹校であるオーストラリアのRatford Collegeから生徒19名と引率教員2名の計21名が来校され、第8回姉妹校交流が行われた。授業や部活動をホストブラザーやホストシスターと体験し、広島研修で宮島や平和記念公園を訪れるなど充実したプログラムの中、互いの絆を深め合った。

京都アメリカ大学コンソーシアム来校 9月26日、京都アメリカコンソーシアムの大学生17名が来校した。6時間目に中学3年生と交流会を行い、放課後は部活動体験を行った。その後120大講義室で歓迎会が開催され、音楽部吹奏楽団によるミニコンサート、ホストファミリーや、国際交流クラブのメンバーも参加しての

交流が行われた。

**高校体育会** 9月27日、保護者の方にもご来校いただき高校体育会が開催された。雨天により予定日より2日遅れての開催となり、プログラムを縮小し午前中のみの開催となった。

**高1進路学習 仕事の流儀** 9月30日の5～7時間目に、120大講義室にて高1が、16種の職業人を迎え、地域で実際に働いている社会人の先輩方からお話を聞き、進路について考えるきっかけとなった。

**塾対象説明会** 9月30日、塾の先生方47名を対象に令和8年度の中学・高校入試などについて説明を行った。

**中学教員対象説明会** 10月1日、県内外の中学校の先生23名をお招きし、令和8年度入試の説明会を開催した。

**高1・高2進路講演** 10月3日の5時間目に高1が「自分にあった進路の選び方（文理選択編）」を、6時間目に高2が「満足のいく進路を実現するために必要な学習が必要なのか」「納得できる進路選択のために（志望理由作成編）」と題したリクルートの清田直希氏による講演を聞き、学力向上に向けて大切な2学期の過ごし方について学んだ。

## 中2国際理解講座

10月7日、中学2年生を対象に、岡山県国際交流員 カラン・スターク氏による「交流して選択肢を増やそう 個性を出そう チャレンジしよう」と題した国際理解講座を行った。英語と日本語を交ぜたクイズを考えたり、早口言葉に挑戦したりといった活動も行った。

**2学期中間考査** 高校は10月9日から、中3は10日から、中1、2は14日から15日まで2学期中間考査を実施した。

**金光学園杯小学生卓球大会** 10月13日、第25回卓球大会が小体育館で開催された。

7名の参加があり、シングルスで男女別に優勝杯を競い合った。

**中学・高校入試模擬テスト** 10月19日、来春の中学校入試を受験する小学校6年生を対象に、11月8日、来春の高等学校入試を受験する中学3年生と学園の中学3年生を対象に模擬テストを行い、多くの受験生が本番さながらに挑戦した。また高校の推薦入試希望者には面接を行った。その後、入試説明が行われ、それぞれに令和8年度入試についての説明を行った。

**韓国春川女子高等学校第13回姉妹校交流** 10月22日から26日、春川女子高等学校から生徒15名、引率教員3名の計18名が来校した。授業や部活動をホストブラザーやホストシスターと体験し、広島研修で宮島や平和記念公園を訪れるなど充実したプログラムの中、互いの絆を深め合った。

**中1・2進路学習** 10月28日、中1は3～4時間目に27名の方に、中2は5～6時間目に26名の方に、それぞれ小体育館にてNPOだつびの方に「指導いただき、大人と夢を語るプログラム」と題し、将来の職業を見据えた中学校時代の過ごし方について考えた。

**避難訓練** 10月29日、火災が発生したとして避難訓練を実施した。

**中3フィールドスタディ福山市企業訪問** 10月31日、中3は探究授業の一環として福山市等にある17企業への訪問を行った。各自希望する企業へは、交通手段も自力で調べ、公共機関を使ってグループごとに訪問した。到着後は、企業見学をしたり仕事内容の説明を聞いたりすること、将来の職業について考えるよいきっかけとなった。

**創立131年記念式** 11月6日、創立131年記念式がほつま体育館で厳かに挙行された。生徒代表 柳澤 慧さんの所願表明は

大変すばらしく、後輩に向けて大変な元気を与えた。記念講演は高48回卒業の一般社団法人高梁川流域学校 代表理事 坂ノ上博史氏を講師に迎え、「越境と自由」過去も未来も変えられる」という演題で実施された。

**読書会** 中2は11月18日に、高2は11月21日に、それぞれ学年で希望の本を選び、各グループに分かれて意見交換を行った。

**中学ロードレース大会** 11月14日、中学校全体のロードレース大会が行われた。男子は4キロ、女子は2キロのコースをそれぞれ力走した。

**一日体験入学パートV** 11月15日（土）、小学校5、6年生を対象にしたオープンスクールを実施した。11時20分から授業見学、食堂体験、部活動体験、学園生による説明会などを行った。児童は約50名が参加し、当日はその保護者も来校し活気あふれる体験となった。

**中2Gakuen English Day** 11月16日、中2が「Gakuen English Day」を校内で行った。ベリッツ講師12名をお迎えし、英語を使ったゲームなどのセクションを校内の各場所で行い、上位3位のチームが表彰された。

## 探究Ⅱ校内発表会

11月26日に特進クラス理系選択者による発表、27日に特進クラス文系選択者による発表が行われた。両日とも120大講義室で行われ、テーマごとに、スライドによるプレゼンテーションを行った。

**2学期期末考査** 高校、中2、3は12月1日から、中1は2日から、5日まで2学期期末考査を実施した。

**中学適性検査型入試** 12月8日、令和8年度中学適性検査型入試が行われ、127名が受験した。

**2学期終業式** 12月23日、2学期終業式をほつま体育館で行った。

**お悔やみ** 旧職員 千葉忠先生には7月21日にご逝去、久繁正人先生の御祖母には8月21日にご逝去、澤田安美さん（中3保護者）には10月18日にご逝去、野上和義先生の御母堂には12月1日にご逝去、松田恵梨香先生の御祖母様には12月8日にご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

**お慶び** 角南佑典先生には10月30日に長男のご誕生、お慶び申し上げます。

## 教室の窓から

かつて生徒席から見えていた教室の窓からの景色と、今教壇から見えている教室の窓からの景色。視線の方向が変わっただけでそこに広がる風景そのものに大きな変化はない。何年経っても、その場所から見える景色というのはそうそう変わらないものだ。しかし、同じ景色でもその「見え方」というものは変化する。私は教壇に立ち始めてから、そのことを強く感じるようになった。

さて、なぜだか分からないが、今年は将来・未来のことについて生徒と話す機会が特に多かったように感じる。進路相談、将来の夢、ときには金光学園の未来についても生徒と話す機会があった。何気ない雑談であれば、真剣に話をしたのもある。そんな対話の中で、よりよい将来・未来を築くために不可欠であると私が感じたものがある。それは、「決断力」と「覚悟」だ。将来について悩んでいる生徒は少なくない。そして、どの悩みも迷いから生じている。「こうした方がいいのかな」「ああした方がいいのかな」「どれが自分にとってのベストなんだろう」と迷い、そしてそれが悩みへと変わるのだ。迷い、悩むことは決して悪いことではない。むしろ、それだけ真剣に自分のことを考えられることは素晴らしいことだと私は思う。ただ、いつかは決断をしなければならな

い瞬間がきてしまう。そのときに、迷ったまま中途半端な決断をしてしまうのか、「覚悟」をもって決断するのかでは、同じ選択であっても、その後に生じる価値には大きな違いがあるだろう。なぜなら、その決断に「覚悟」があるのか、ないのかは決断後の行動に必ず影響するからだ。中途半端な決断をして、「やっぱりこうすれば良かったな、ああすれば良かったな」と後悔するのと、自分が「覚悟」をもって決断をして、「どうだろうと悔いはない」と前向きに考えるのでは、同じ決断でも後者の方が、確実に次のステップに飛躍できる。私は思う。そんな気づきがあった一年だった。これから先、生徒たちの前には決断を迫られる場面が増えていくと思うが、たくさん迷い、悩んで、そして最後は「覚悟」をもって、決断をしていく欲しいと私は願っている。

ふと、なぜ今年はこれほどまでに将来・未来について話す機会が多かったのかを考えてみた。もしかすると、私自身に何か大きな決断の瞬間が迫っているから、神様が「決断」について考える機会を与えてくださったのかもしれない。それとも、この金光学園に大きな決断をしなければならぬ瞬間が近づいているからだろうか。いずれにしても、私個人も、金光学園も、「覚悟」をもって決断できるはずだ。いや、「覚悟」をもって決断をしなければならぬ。その大きな決断の瞬間が、今から楽しみでならない。そして、その決断後の未来は、もっともっと楽しみだ。

## 編集後記

偶然にも最近、教育に携わる二人の方から「分からない」ということを肯定的に捉える発言を聞きました。教員という立場で生徒のというイメージを持っていた私には目からうろこのお話でした。「分からない」からこそ「この先には何が待っているのだろうか?」という自學が始まる。だからこそ堂々と「分からない」という言うべし! という言葉には「なるほど、確かに」と納得半分、「でもなあ〜。なんか言いづらいなあ〜」が半分。きっと私は「分からない」を「分かっている」に聞こえる。『分かる』より『分からない』ことが『分かる』方が難しいんじゃないだろうか。そんなことを秋の夜長に考えています。

令和7年12月12日印刷

12月23日発行

編集者

金光学園やつなみ保護者会  
やつなみ編集部

印刷所

倉敷市船穂町船穂二〇九五―一  
玉島活版所

発行所

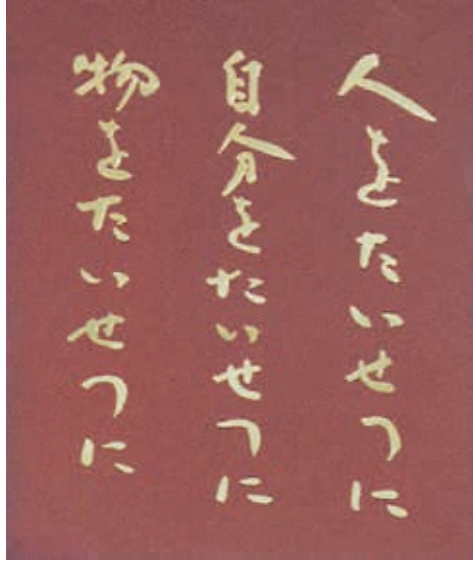
浅口市金光町占見新田一三五〇  
金光学園内  
金光学園やつなみ保護者会

## 高2キャリア研修 関東方面コース



## 高2キャリア研修 沖縄方面コース





◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。



homepage



facebook



Instagram

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<https://www.konkougakuen.net>

E-mail [info@konkougakuen.net](mailto:info@konkougakuen.net)